

協議事項ア 令和7年度碧南市教育委員会点検・評価報告書について（庶務課）

令和7年度（令和6年度対象）

碧南市教育委員会 点検評価報告書

令和7年11月

碧南市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	教育委員会点検・評価の流れ	2
3	教育委員会の体制	2
4	教育委員会の活動状況	3
5	各課等の主要事業の評価	6
6	総合計画の施策に対する取り組み	4 2

1 はじめに

教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、学識経験者の知見の活用を図りつつ点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することが地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）に規定されています。

本市の教育委員会においても、効率的・効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、毎年、点検及び評価を実施しています。

本報告書は、令和6年度に教育委員会が管理し、及び執行した事務につきまして、点検及び評価を行った結果を報告するものです。

報告書の構成につきましては、まず、1年間の教育委員会の活動内容をお知らせするために、教育委員会の定例会・臨時会の開催状況等を一覧表にまとめました。

次に、各課において特に継続的な進捗管理や推進が求められる事業を主要事業として取り上げ、個々に点検及び評価を行いました。各主要事業の取組みの内容から、その成果を明らかにし、残されている課題と外部評価者の評価を踏まえ、今後の取組みの方向を導き出し、次年度以降の事業実施に反映させていくように努めました（PDCAサイクルの活用）。

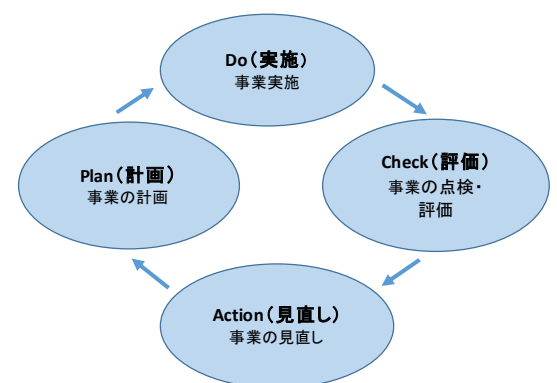
最後に、教育委員会が実施した全ての事業を、総合計画及び教育大綱の主要施策の方向ごとに分類し、取組みの内容を整理しました。

なお、点検及び評価につきましては、令和6年度から愛知教育大学教授の野平慎二氏に指導及び助言をいただいています。

点検評価の結果を踏まえ、今後も効率的・効果的な教育行政の推進を図り、本市の教育の一層の充実に努めてまいります。

（参考）

PDCAサイクルに基づいた事業実施



○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

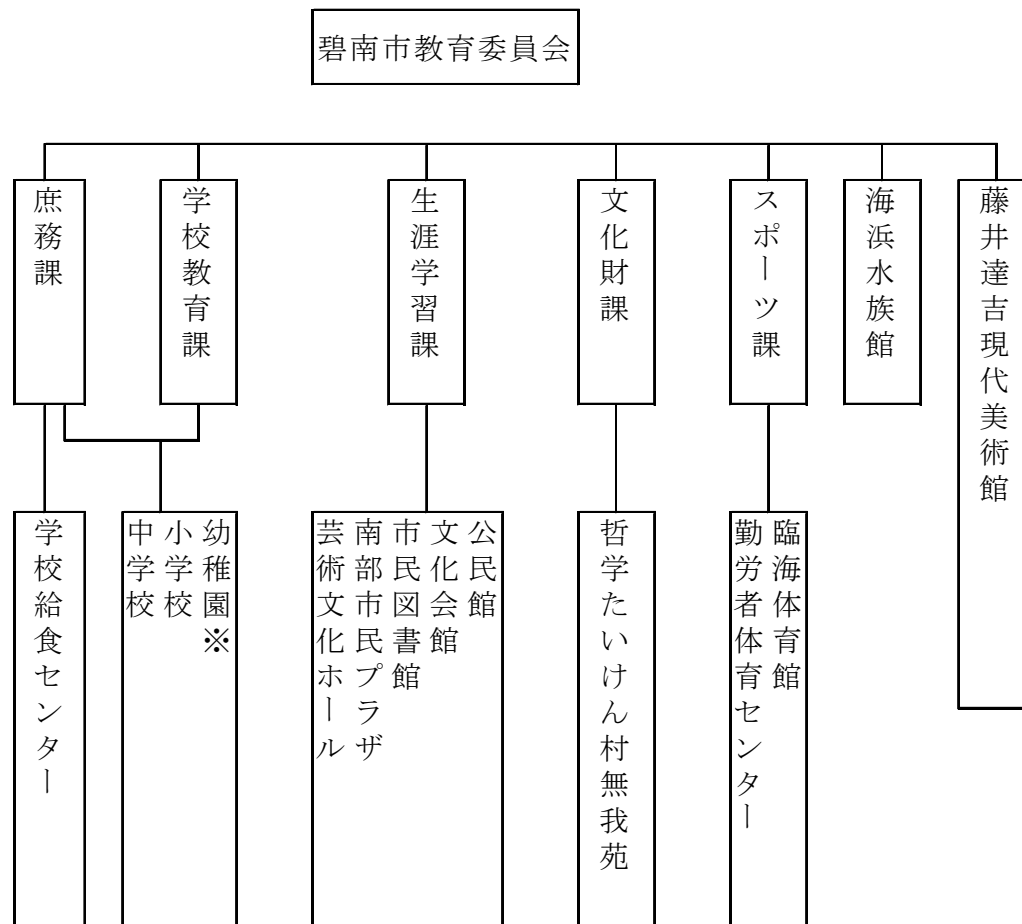
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会点検・評価の流れ

日 程	作業内容
令和6年度中	教育行政方針の策定、教育行政方針に基づく事業等の実施
6～7月	各課による点検・評価表に基づく評価 (主要施策成果報告書、「へきなんの教育」作成における事業の実施状況の点検)
7～8月	学識経験を有する者の知見の活用(外部評価) (外部評価者によるヒアリング)
9～10月	評価結果を踏まえた各課による今後の取組み方向の検討
10～11月	教育委員会での検討 教育委員会点検・評価報告書の作成
11月	教育委員会点検・評価報告書の公表等 (議会へ提出するとともにホームページにより広く市民へ公表)

3 教育委員会の体制(令和7年3月31日現在)



※幼稚園事務は、こども課で補助執行を行っています。

4 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会のしくみ

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育長及び4人の委員で構成し、教育行政に関する基本的な施策の決定と重要な案件の審議を行っています。

教育長は、当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有するもののうちから、委員は、当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命することとなっています。

(2) 教育委員会の構成（令和7年3月31日現在）

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	生田弘幸	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
委 員 (教育長職務代理)	大村幸	令和4年10月1日から令和8年9月30日まで
委 員	岡本明弘	令和3年10月1日から令和7年9月30日まで
委 員	榊原京子	令和5年10月1日から令和9年9月30日まで
委 員	深津茂樹	令和6年10月1日から令和10年9月30日まで

(3) 教育委員会の開催状況

令和6年度の開催状況は、定例会12回、臨時会1回、合計13回開催しました。定例会及び臨時会での審議内容は、協議事項17件、報告事項31件、合計48件です。

ア 定例会の開催状況

開催日	議 題
4月定例会 4月18日	報告事項 ア 3月議会総括質疑内容及び回答について イ 小中学校みどりの学校の実施について ウ 令和6年度「県民の日学校ホリデー」の実施について エ 教育相談事業報告について
5月定例会 5月30日	報告事項 ア 令和6年度6月補正予算（案）について イ 小中学校みどりの学校の実施について（変更） ウ 令和6年度教育委員会学校教育課・教育委員学校訪問について
6月定例会 6月20日	協議事項 ア 令和6年7月1日付け職員の人事異動について 報告事項 ア 碧南市教育委員会附属機関の委員について イ 令和6年度小中学校の研究主題について ウ 学校教育における諸問題について
7月定例会 7月25日	協議事項 ア 令和7年度使用小学校及び中学校用教科用図書採択について

	報告事項 ア 6月議会一般質問内容及び回答について イ 要保護・準要保護児童生徒の認定について
8月定例会 8月29日	報告事項 ア 令和5年度主要施策成果報告書について イ 令和6年度9月補正予算（案）について ウ 令和5年度碧南市芸術文化ホール指定管理者実績報告について エ 記念事業「二十歳を祝う会」の開催について オ 就学時健康診断について カ 地震防災応急計画の改訂について
9月定例会 9月26日	協議事項 ア 令和7年度学校教育予算に関する要望書について イ 碧南市教育委員会教育長職務代理者の指名について
10月定例会 10月24日	協議事項 ア 令和6年度碧南市教育委員会点検・評価報告書について イ 令和7年度教職員定期人事異動方針について 報告事項 ア 9月議会一般質問内容及び回答について
11月定例会 11月20日	報告事項 ア 令和7年度学校行事の日程（案）について イ 令和6年度12月補正予算（案）について
12月定例会 12月19日	報告事項 ア 第2次碧南市スポーツ推進計画（案）について イ 令和6年度教育委員会事務局学校訪問を終えて
1月定例会 1月30日	協議事項 ア 令和7年度教育行政方針について 報告事項 ア 12月議会一般質問内容及び回答について イ 「卒業生に贈る言葉」について ウ 新入学児童生徒数の状況について
2月定例会 2月26日	協議事項 ア 碧南市教育委員会事務局等处務規則の一部改正について イ 令和7年度学校教育の指導方針並びに学校経営の努力目標について 報告事項 ア 令和7年度策定碧南市実施計画について イ 令和7年度教育委員会各課主要事業について ウ 令和6年度3月補正予算（案）について
3月定例会 3月19日	協議事項 ア 碧南市就学援助費事務取扱規程の一部改正について イ 碧南市教育委員会後援等の使用承認に関する基準の一部改正について

	ウ G I G Aスクール端末調達に係る計画書について エ 令和7年度職員の人事異動について
--	---

イ 臨時会の開催状況

開催日	議 題
令和7年第1回臨時会 3月7日	協議事項 ア 令和7年度教員人事異動について

(4) 教育委員会の活動状況（教育委員会議は除く）

年月日	内容	場所
令和6年5月28日	第1回総合教育会議	市役所
令和6年5月27日 令和6年10月17日 令和6年10月24日	学校訪問	棚尾小学校 中央中学校 南中学校
令和6年10月25日	市長との予算協議	市役所
令和6年11月14日	研究発表会	鷺塚小学校

5 各課等の主要事業の評価

(1) 主要事業一覧（総合計画における位置づけの順に掲載）

No.	種別	評価事業	課（施設）名
1	継続	日本語教育支援充実事業	学校教育課
2	継続	学校給食への地場産物の活用の推進	庶務課（学校給食センター）
3	継続	HEXPO STAFF活動事業	生涯学習課
4	継続	碧南緑地ビーチスポーツ推進事業	スポーツ課
5	継続	無我苑自主事業	文化財課（無我苑）
6	継続	文化財の啓発事業	文化財課
7	継続	企画展開催事業	藤井達吉現代美術館
8	継続	教育普及事業	藤井達吉現代美術館
9	継続	水族館活動実施事業	海浜水族館
10	継続	図書館利用拡大のための事業	生涯学習課（市民図書館）



主要事業名	1. 日本語教育支援充実事業	所属課	学校教育課
-------	----------------	-----	-------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施設分野2 基本施策7 学校教育 ②支援の必要な児童生徒への支援の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
来日直後の日本語教育が必要な児童生徒に対して、サバイバル日本語の学習を通じて、日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し、最低限の意思疎通が可能となるよう日本語の初期指導を行う。
評価対象とした理由
日本語の初期指導を必要とする児童生徒が年々増加している状況から、平成28年度から初期指導教室を開設している。今後の事業推進にあたり、より良い方法を検討していきたい。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
14,277 千円	14,488 千円	14,488 千円

4 取り組みの内容【D】

<p>(1) 日本語初期指導教室の実施概要 来日直後等の日本語初期指導を必要とする児童生徒に対して、学校外において日本語初期指導 教室を開設し、就学直後3ヶ月程度、在籍校の1時限目から給食の時間前までの間、日本の生活習慣や学校生活への適応を図るための日本語初期指導を実施した。給食の時間以後は、学校生活にも慣れるよう在籍校において指導を行った。</p> <p>日本語初期指導教室と学校は、児童生徒の学習状況等について連絡調整をし、当該児童生徒が 学校生活に円滑に順応できるための連携を行った。</p> <p>(2) 日本語初期指導教室の開設状況</p> <p>ア 受入れ人数 令和6年度の支援受け入れは、実人数51人（前年度43人）であった。その内訳は小学生46人、中学生5人であり、計11校の小中学校からの児童生徒を受け入れた。国外から来たばかりの子どもやブラジル人学校から移ってくる子どもだけでなく、来日後母国のオンライン教育を受け、課程終了後日本の学校に移る子どもなどもあった。また、日本生まれで幼児期から日本で過ごしている子どももいて、その在籍数が年々多くなってきている。</p> <p>国籍別では、ブラジル19人、ベトナム17人、フィリピン6人、インドネシア6人、ペルー2人、スリランカ1人であった。</p> <p>(ア) 1学期 5校（大浜小学校、中央小学校、日進小学校、南中学校、東中学校）22人（小学生19人、中学生3人）</p> <p>(イ) 2学期 4校（新川小学校、大浜小学校、鷺塚小学校、新川中学校）18人（小学生17人、中学生1人）</p> <p>(ウ) 3学期 4校（棚尾小学校、鷺塚小学校、西端小学校、中央中学校）11人</p>

(小学生10人、中学生1人)

イ 開設場所 1学期 中央・日進児童クラブ、2学期 新川・大浜児童クラブ、
3学期 鷺塚・西端児童クラブ

(ア) 保護者の送迎が見込めない場合等を考慮し、支援対象となる児童生徒の住所地に近い児童クラブでの開設を基本として、適宜決定した。

(イ) 外国籍児童生徒の増加に伴い、各学期2教室の開催とした。

ウ 開設時間 1時限目から給食の時間前まで

エ 児童生徒1人あたりの指導期間 4時間/日×60日(3ヶ月程度、上限240時間)

オ 指導者 NPO法人プラス・エデュケート(委託)

カ 指導体制 日本語教育支援員2名が中心となり、支援員補助者と指導

キ 支援員活動時間

日本語教育支援員 週5日、1日5時間程度。

支援員補助者 週5日、1日4時間程度。

(3) 日本語初期指導教室指導員の研修 日本語教育支援員が経験の乏しい支援員補助者と一緒に児童生徒への指導を行う中で、日本語初期指導についての指導・研修を行い、支援員補助者のスキルアップを図った。

5 達成度を測る指標

指 標	初期指導教室受入児童生徒数				
指標の説明	目標値は1学期時点の初期指導教室受入可能児童生徒数。 実績値は1学期の教室に実際に通った児童生徒数。				
年 度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度
目標値	18人	18人	25人	25人	25人
実績値	11人	11人	22人	—	

指 標	DLA語彙テスト平均正答率				
指標の説明	目標値は受け入れ児童生徒が最低限必要な日本語の習熟度を図るDLA語彙テスト(55点満点)の正答率 実績値は教室終了時に受けたDLA語彙テストの平均正答率(正答率70%に達成した児童・生徒数の割合)				
年 度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度
目標値	70%	70%	70%	80%	80%
実績値	61%	75%	78%	—	

6 取り組みの成果【C】

(1) 全体

初期指導教室に通う児童生徒は、来日直後で日本語が分からないだけでなく、日本の生活に慣れず、学校生活の基本的なことも分からず孤立しがちである。また、家庭の事情から欠席数が多くなる子どもも少なくない。そうした子どもたちにとって初期指導教室は、意思疎通に必要な最低限度の日本語を学ぶ場所というだけでなく、同じ母語や境遇の仲間として、意欲的に互いに学びあい精神的に落ち着ける場所となっている。日本の学校生活に適応するための第一歩として、とても重要な場所である。

令和6年度も、NIEコーディネーターの協力による新聞の授業を取り入れ、「新聞切り抜き作品コンクール、チャレンジ部門」に36名が応募した。そのうち8名が奨励賞をいた

だくことができた。取り組むうえで、文字の読み書きができなかった子も、新聞を読もうとする姿勢があり、自分で見つけた記事を人に伝えようとする意欲がすばらしかった。自分のことを表現できることを喜んでおり、彼らの成長を感じることができた。切り抜き作品は在籍学級で発表し、クラスの友達や先生からコメントをもらうことを課題とした。クラスの友達に興味を持ってもらえ、質問が出たことがお互いを知り、深い交流につながった。

今年度は低学年が多く、習った日本語も使わないとすぐ忘れてしまい、休み明けには単語を忘れたり、文字が読めなくなってしまうことが多かった。日本語初期指導教室を年間6教室開催し、日本語初期指導を必要とする外国人児童生徒に、日本語指導と日本の学校生活のフォローアップをすることができた。日本語教育を必要とする児童生徒は、日々増加しており、今後も指導、支援は必要である。

様々な国籍、様々な環境におかれた子どもたちが日本に適応して学校生活を送ることができるように、日本語指導と教科指導との統合、母語による支援方法、心のケアの充実を目指すため、教員研修の在り方を工夫するとともに、日本語教育支援員、支援員補助者の人材確保、初期指導教室と学校との連携強化を図っていきたい。

また、今年度も、安心して学べるということと学校での生活の基盤を作ることの指導に重点を置いた。特に、学校のきまりを守ることをはじめ以下の3点の指導を丁寧に重ねた。

(1) 日本の学校での発言の仕方、発表の仕方を身に付ける

自分では挙手をしているつもりでも、日本での挙手の仕方と異なり、通じていない子がいたので、挙手の方法から指導した。また、当てられた子が答えるということも理解できていなかったため、先に答えを言わないこと、静かに聞くことを守るように指導した。

(2) 自分の意思・感情を表現できるようにすること

自分の気持ちを表現することはもちろん、相手にどうしてほしいかを言語で表現することを練習した。例えば「先生、トイレいいですか」「先生、できました。見てください」「わかりません。何ですか」などの許可求めや依頼、質問などを言葉で言えるように練習した。

(3) 「話す・聞く」「読む・書く」の4技能をバランスよくのばすこと

話すことは得意でも、文字が読めない子が若干名いた。何度も文字と音を結びつける訓練をした。練習には個別の対応が必要であったが、徐々に読める文字が増えた。文字習得は個々に差が大きく、かなり細かくステップを区切って練習した。文字習得ができた子は、文や文章の読みに進んだ。算数などの教科につながる文章を読める子もいた。レベルに応じて文章を厳選し、取り組んだ。

自分の言いたいことは話せるが、人の話を聞いて動く、聞いた話を要約するということが苦手な子が多かった。まとまりのある話を聞き取って、自分なりにどう理解したかを発現させることで、大事な話を聞きもらさないようになってきた。

(2) 日本語初期指導教室指導員の研修

支援員補助者への研修によって、以下の点が理解されスキルアップされた。

ア 外国にルーツのある子どもへ声のかけ方、指導の仕方

イ 子どもの背景にある国の文化や事情、考え方

ウ 日本語指導の手順・教え方

エ 指導に用いる日本語のコントロール（学習している言葉と学習していない言葉の使い分け）支援員補助者は、どうしても入れ替わりが多いため、指導方法の共有を第一課題として研修を実施した。指導経験の少なさからくる戸惑いもあるので、その日にあった具体的な場面での振り返りを研修とし、その積み重ねを心がけるようにした。

7 残されている課題【C】

- (1) 【開設場所・環境の課題】小学校に隣接する児童クラブを会場としていることは、安全面ではよいが、開催地から離れた地域の学校に在籍し、保護者による送迎ができない場合は、より多くの地域をカバーできるよう開催場所を配慮しており、開設教室数を6教室とした。しかし、それでも親の送迎ができず通うことができない児童生徒がある。児童生徒の家族環境が多様であることもその一因である。また、児童クラブを利用していることで、床に座って学習していることにより、慣れない姿勢で集中力が続かない傾向がある。そのため、令和8年度からは学校内で開催できるよう検討を進める。
- (2) 【指導、支援方法の課題】平成28年度事業開始から多くの子どもたちを見てきた中で、問題は言語だけではないということが見えてきた。国際結婚での複雑な家庭事情や親の離婚など、家庭が不安定で学習に集中できない子どもが増えてきている印象が強く、子どもの心のケアの必要性が高まっていると感じる。また、発達上で特別な支援が必要な子どもも増えてきており、指導方法を検討していく必要がある。

8 外部評価者の評価【C】

日本語初期指導が必要な外国ルーツの子どもたちの境遇は多種多様で、個別の事情に応じた対応をするのはとても大変なことだと思います。また日本語初期指導教室を実施する側の人的、環境的条件が必ずしも十分とは言えないなか、事業の成果（DLA 正答率）が着実に向上している点は、大いに評価されます。日本語指導の内容面のみならず、子どもたちが教室に通いやすいよう交通手段の確保に努められた点も特筆すべきことと思います。引き続き、学校と連携しつつ、また指導員の研修の充実を図りながら、事業を推進していただきたいと思います。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

学校に編入してくる外国籍児童生徒の国籍がより多国籍化する中で、日本語初期指導教室において、学校で必要な日本の文化等を適切に指導する必要が今まで以上にあると考える。日本語初期指導教室担当と連携を取りながら進めていきたい。

対象の児童生徒が学習の機会を逃さないように、初期指導教室から学校に戻るための交通手段を確保しているが、日本語初期指導教室に保護者が送っていくことができない事例もあり、今後の課題である。日本語初期指導教室を終えた児童生徒の日本語能力を学校においてどのように保持していくか、検討していきたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	2. 学校給食への地場産物の活用の推進	所属課	庶務課 (学校給食センター)
-------	---------------------	-----	-------------------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策7 学校教育 ⑤安全な給食の提供及び食育の推進

2 事業の目的・理由【P】

目的
地場産物を使用した給食実施に努め、学校給食を通して、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めるとともに、生産者の努力や食に関する感謝の気持ちを育む。
評価対象とした理由
第4次碧南市食育推進計画においても地産地消の推進が位置付けられており、着実な進展が求められている。また、教育の範囲に限らず、地元経済の振興や環境負荷の低減などにも関わる課題であり、関係機関との連携を図りながら取り組んでいく必要があるため。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
349,078 千円	372,430 千円	365,304 千円
10款6項6目 5-3 (賄材料調達事業) 賄材料調達事業の支出内容はごはん、牛乳、おかず等、給食食材の購入費。		

4 取り組みの内容【D】

<p>賄材料調達事業の中で、地場産物の活用について、下記のソフト事業に取り組んだ。</p> <p>(1) 地場産物を使用した給食の実施</p> <p>ア 野菜等青果物は、積極的に碧南産・県内産を使用した。</p> <p>イ 地元産食材を使用した献立を取り入れた。</p> <p>(2) 食育の推進</p> <p>ア 「食育だより」を年間6回発行、児童生徒（保護者）に配布し、地元産の食材を使用した献立、学校給食での地産地消の取り組み、碧南の地場産物、朝ごはんの大切さ、クッキングコンテストなどを紹介するとともに、給食を通じて食育を学ぶ機会を提供した。</p> <p>また、引き続きホームページに地場産物を活用した給食レシピ集を紹介した。</p> <p>イ 「愛知の新たなねぎの日」（4月10日）に、碧南玉ねぎ部会から寄贈された新たなねぎを給食に使用し、献立表等で紹介した。</p> <p>ウ 「よいきゅうりの日」（4月19日）に、西三河冬春きゅうり部会から寄贈されたきゅうり（三河みどり）を給食に使用し、献立表等で紹介した。</p> <p>エ 「へきなん赤しその日」（6月14日）に、碧南しょうが・しそ部会から寄贈された赤しそを給食に使用し、献立表等で紹介した。</p> <p>オ 「碧南にんじんの日」（1月23日）に、碧南にんじん部会から寄贈されたにんじん（へきなん美人）を給食に使用し、献立表等で紹介した。</p>

- カ 小学校5・6年生を対象に碧南産の食材を使用した朝ごはんのクッキングコンテストを実施し、優秀作品を「食育だより」に掲載した。
- キ 栄養教諭が学校と協議し、教科及び特別活動で食育指導を実施した。

5 達成度を測る指標

指 標		第4次碧南市食育推進計画に記載の学校給食における使用した農産物(野菜)の地元産の種類及び割合(碧南産・県内産)									
指標の説明		学校給食に使用した農産物(野菜)に対する碧南産・県内産種類の数と割合。令和7年度目標として、碧南産(種類19種類以上、割合35.0%以上)、県内産(種類34種類以上、割合63.0%以上)を目標としている。									
年 度		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度	
生産別		市内	県内	市内	県内	市内	県内	市内	県内	市内	県内
種類	目標値	19	34	19	34	19	34	19	34	19	34
	実績値	20	32	21	33	15	31	15	29	-	-
割合	目標値	35.0	63.0	35.0	63.0	35.0	63.0	35.0	63.0	35.0	63.0
	実績値	37.0	59.3	38.9	61.1	27.8	57.4	27.8	53.7	-	-

※令和3年度末策定の第4次碧南市食育推進計画に新たに目標設定した。

6 取り組みの成果【C】

(1) 地場産物を使用した給食の実施

ア 給食に使用した農産物の種類は、県内産が目標値34種類のところ29種類、市内産が目標値19種類のところ15種類であり、割合は、県内産が目標値63.0%のところ53.7%、市内産が目標値35.0%のところ27.8%であり、令和3年度から令和4年度にかけては高水準を達成できたが、令和5年度及び令和6年度は目標値に大きく届かない状況となった。

イ 農業水産課と連携してきた碧南産食材、にんじん、たまねぎ、きゅうりなどは継続して使用することが出来たが、もともと出荷量が少ない地場農産物は、価格の高騰などの影響を受けて、積極的に碧南産を指定できなかったことが、結果に大きく反映した形となった。

ウ 地元の農産物として、新玉ねぎを使用した「たまねぎのサラダ」、きゅうり(三河みどり)を使用した「やみつききゅうり」、赤しそを使用した「鶏肉の赤しそソースかけ」をはじめとする碧南の農産物を、年間を通じて積極的に使用するとともに、碧南の郷土料理である「地豆」(落花生の塩ゆで)と「落花生の煮豆」を提供した。

また、地場産物を使用した新メニューとして、今年度は「サラダたまねぎと鶏肉のチーズ焼き」、「鶏肉の赤しそソースかけ」、「トマトの赤しそあえ」、「赤しそポテトサラダ」等を献立に取り入れた。

エ 学校給食週間(1月23日から1月29日)では、1月23日の碧南にんじんの日に碧南にんじん部会より提供された「へきなん美人」を使い、『人参しりしり』、『へきなん美人の豆乳みそ汁』を提供した。

また、碧南市で醸造された「白しょうゆ」と愛知県産のにんじん(すりおろし)を使用した『鶏肉のにんじんソースがけ』も提供し、すべての料理に「にんじん」を使用した

「にんじん献立」を提供した。

オ 食育月間（6月）・食育の日（毎月19日）では、6月19日に「愛知を食べる学校給食の日」として、県内の旬の食材や碧南産食材を紹介する献立（「ニギスフライ」「新玉ねぎの和風ソテー」「愛知のぶたじる」「蒲郡ミカンゼリー」）を提供した。

また、11月21日に「秋を感じる和食の日」として、碧南市で醸造された「有機白しょうゆ」（有機農業で栽培した小麦、大豆で作った白しょうゆ）を「鰯のもみじ焼き」「吹き寄せ煮」「湯葉と紅葉のすまし汁」の味付けに使用するとともに、秋が旬の食材や地場産物を使用し、和食の良さや季節を感じることもできる献立を提供した。

(2) 食育の推進

ア 地元産食材や和食文化を「食育だより」や「毎月の献立表」を活用し、地元食材、郷土料理や和食文化をこども達に紹介し、理解させることが出来た。

イ 生産者から寄贈された野菜（新玉ねぎ、きゅうり、赤しそ、にんじん）を使用した献立を通して、地元野菜のすばらしさを認識させ、給食の時間には栽培や収穫風景をこども達に動画で紹介するなど、児童生徒に生産者を身近に感じさせることができた。

ウ クッキングコンテストには、小学校7校から764点（参加率60%）の応募があり、碧南産食材の品目や料理の理解につながった。また、優秀作品を実際の献立に取り入れた。

7 残されている課題【C】

寄贈を受けた野菜等を中心に、地元農産物を使用した多彩な献立を、食育月間、学校給食週間や和食の日などを中心に提供したり、クッキングコンテストでこども達が考えた献立をアレンジして提供するなど、給食や食育だより、献立表などを活用した地産地消、食育の推進は継続的に行えているが、指標とした割合が、特に碧南産では低水準のまま2年間継続してしまっ

た。
今年度は目標に少しでも近づけるよう、過去に使用した碧南産の食材を中心に、積極的に使用することしたい。

8 外部評価者の評価【C】

令和6年度も、地場産物を利用した給食の実施、および食育の推進という2つの柱を中心に事業が展開され、心身ともに健康な子どもたちの育成に大きく寄与されたことがうかがえます。食材費の高騰のため思うように地場産物を購入できない困難を抱えつつも、地場産物を使用した新しいメニューを考案するなど、安全・安心な学校給食の提供に努力されていることに深く敬意を表します。今後も引き続き、可能な限り地場産物を給食に取り入れると同時に、食育を充実することで、健康と文化の両面で子どもたちの成長と発達を支えていただくことを望みます。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

令和7年度は食料品物価の更なる高騰が続く中、少しでも地元の農産物を使用するために「碧南産」に限定した発注方法を取り入れるなど、可能な限り地場産物を使用できるよう努めるとともに、令和8年度に開催予定のサッカーW杯やアジア競技大会に合わせたアジア料理や世界の様々な料理を数多く提供できるよう、新たな給食メニューの作成を予定し、この機会を地場産物の活用や食育の充実に生かせるよう工夫したい。

また、和食の良さや季節を感じることでできる献立の提供、「食育だより」や「献立表」の充実、クッキングコンテストの開催などを改善・継続して行きたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	3. H E X P O S T A F F 活動事業	所属課	生涯学習課
-------	-----------------------------	-----	-------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策8 生涯学習・スポーツ ②生涯学習機会の拡充

2 事業の目的・理由【P】

目的
本事業は、市内の青年の連帯と青年活動の活性化を図ることを目的としている。昭和60年国際青少年年に取り組みするために組織された実行委員が、その後H E X P O S T A F F を組織し、各種イベントを企画し青年層の活動の活発化と友好の輪を広げている。
評価対象とした理由
年々スタッフの確保に苦慮しており、定例会の出席も少ない状況が続いていることから、メンバーの募集方法や定例会の日程など各種見直しを行っている。更なる効果的な運営を行うため点検評価を行う。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
(1) 500 千円	(1) 500 千円	(1) 500 千円
(2) 50 千円	(2) 50 千円	(2) 50 千円

4 取り組みの内容【D】

<p>(1) H E X P O S T A F F 活動事業</p> <p>ア 毎月1回定例会を開催</p> <p>イ マリンスポーツフェスタに参加</p> <p>ウ 元気ッスへきなんに参加</p> <p>エ 水遊び（あおいパーク）</p> <p>オ クリンピーときれいな街づくりに参加</p> <p>カ 子どものつどいに参加</p> <p>キ 二十歳を祝う会に協力</p> <p>ク 平谷村の雪遊び</p> <p>ケ H E X P O 祭</p> <p>(2) プレイメイト活動事業</p> <p>学校完全週5日制となった平成14年度より、安心安全な子どもの居場所を提供するため、青年団体であるH E X P O S T A F F が小学生を対象にレクリエーションや工作、お菓子作りなど、様々な生活体験を提供する教室を開催している。前期・後期で全3回ずつ開催。</p>
--

5 達成度を測る指標

指 標	H E X P O S T A F F 会員数				
指標の説明	H E X P O S T A F F の人数（高校生の準会員を含む）				
年 度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	12 年度
目標値	70 人	70 人	70 人	70 人	70 人
実績値	49 人	38 人	44 人	—	—

6 取り組みの成果【C】

(1) H E X P O S T A F F 活動事業	
令和6年度はおおむね計画通りに事業を実施することができた。	
・水遊び(あおいパーク)	参加スタッフ 約20名
・雪遊び(明石公園)	参加スタッフ 約20名
・ヘキサポ祭	参加スタッフ 約20名
・各種事業への参加、協力	
「春の一斉清掃」	参加スタッフ 約10名
「クリンピーときれいな街づくり事業」	参加スタッフ 約10名
「元気っす！へきなん 総踊り」	参加スタッフ 約20名
「二十歳を祝う会運営補助」	参加スタッフ 約20名
(2) プレイメイト活動事業	
・「みんなでレクリエーションで遊ぼう」	参加者 18名
・「お菓子作り①」	参加者 20名
・「切って貼って描いて楽しい工作①」	参加者 19名
・「お兄さん、お姉さんと体を動かそう！」	参加者 21名
・「切って貼って描いて楽しい工作②」	参加者 21名
・「お菓子作り②」	参加者 15名

7 残されている課題【C】

年々スタッフの確保に苦慮しており、定例会の出席も少ない状況が続いている。人員確保のため、令和2年度から準会員として高校生も参加可能としているが、参加しやすいよう定例会の開催を土曜日の午後に変更しても参加する高校生はほとんどいないのが現状である。また、H E X P O S T A F F の活動が主に「プレイメイト」など子どもとの遊びが中心となっていることから、スタッフと同世代に活動を周知してもらえず、会員の確保に繋がっていないと考えられる。

8 外部評価者の評価【C】

碧南の青年の方々が H E X P O S T A F F として長年活動を継続されていることは、類例をみない非常に素晴らしいことだと思います。スタッフのご尽力により、とりわけ子どもたちにとって有意義な体験活動の機会が提供されていると思われます。スタッフ自身にとっても、碧南の魅力を再発見するとともに、社会参画を通して自身を成長させる得難い学習の機会となっているのではないかと考えられます。現在取り組んでおられる、高校への情報提供や SNS の活用によるスタッフ確保の努力が実を結ぶことを願います。スタッフになることの魅力や生涯学習としての意義をさらに PR しながら、引き続き事業を継続していただきたいと思います。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

HEXPO STAFF は今年結成から 41 年を迎え、歴史のあるボランティア団体である。子ども会等市内の団体からも、HEXPO STAFF の活動は高く評価されており、スタッフにも自分たちの行動が社会貢献になっているということをより実感できるよう事務局がサポートしていく必要がある。今後はスタッフ確保のために高校や大学などに働きかけるなどし、さらなる PR をしていきたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	4. 碧南緑地ビーチスポーツ推進事業	所属課	スポーツ課
-------	--------------------	-----	-------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 施策分野2 基本施策8 生涯学習・スポーツ ④スポーツに触れる機会の充実
--

2 事業の目的・理由【P】

目的
本市特有である碧南緑地ビーチコートを活用しながら、ビーチスポーツの魅力発信に取り組むことを目的とする。
評価対象とした理由
令和8年に愛知・名古屋を会場としてアジア競技大会が開催される。碧南緑地ビーチコートが競技会場予定地となっており、大会実施へ向け、機運醸成のための取り組みを進めているため。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
(1) ア 300 千円 イ 2,217 千円	(1) ア 300 千円 イ 2,276 千円	(1) ア 300 千円 イ 2,464 千円
(2) 1,179 千円	(2) 3,703 千円	(2) 2,839 千円

4 取り組みの内容【D】

(1) ビーチバレーボール ア ジャパンツアーサテライト碧南大会の誘致・開催 （一社）日本ビーチバレーボール連盟が主催するジャパンビーチバレーボールサテライト大会（国内ツアー大会におけるトップツアーに次ぐ2番手に位置付けされるもの）を誘致し、碧南市で開催した。 イ 全国ビーチバレーボール中学2人制全国大会（HEKINANマンモスカップ）の開催 中学生による2人制ビーチバレーの全国大会を開催。令和6年度で4回目の開催。これまで他自治体において4人制の中学生大会は存在したものの、2人制の全国大会は碧南市が先駆けて開催したものである。大会に併せて、市内飲食店によるキッチンカーやテント販売を行うマルシェを開催し、碧南市の魅力の発信も行った。
(2) ビーチサッカー（HEKINANカップ）の開催 全国各地域から選抜された一般のビーチサッカーの男女各チームによる全国大会を開催した。一般財団法人日本ビーチサッカー連盟が共催し、日本代表選手を有するチームも本大会に参加するなど、ハイレベルな試合が展開された。 また、全国から出場チームを募り、小学生（U12）の大会を新たに開催した。一般の部もU12も、試合の合間にビーチサッカーのトップ選手が小学生に直接指導を行うビーチサッカークリニックを開催した。

5 達成度を測る指標

指 標	全国規模のスポーツ大会、イベントの誘致・開催件数と動員人数				
指標の説明	第2期及び第3期碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標（KPI）を用いているため、ビーチスポーツ以外の競技も含んでいる。				
年 度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	12 年度
目標値	6 件・3,950 人	6 件・3,950 人	7 件・2,000 人	7 件・2,000 人	7 件・2,000 人
実績値	5 件・1,371 人	5 件・1,484 人	6 件・2,069 人	—	—

6 取り組みの成果【C】

(1) ビーチバレーボール

ア ジャパンツアーサテライト碧南大会（令和6年10月5日～6日）

サテライト大会は、主に将来プロを目指す選手や社会人選手、大学生の出場が中心となるツアー大会で、碧南大会では、男女各24チームによる2日間にわたるトーナメント戦が行われた。成績上位のチームにはより高いJVA（日本バレーボール協会）ビーチバレーボール・オフィシャルポイントが付与される。

本大会には市と包括連携協定を結ぶ丸八証券株式会社と棚尾商店街振興会が協賛しており、官・民・地域が一体となって大会の盛り上げに力を入れている。また、観客の動員のほか、大会動画をライブ配信するなど、発信力の強化にも努めており、ビーチスポーツ及び本市ビーチコートの魅力発信がされた。

碧南緑地ビーチコートは、令和8年の愛知・名古屋アジア競技大会のビーチバレーボールの会場予定地でもあり、引き続き全国規模の大会誘致、開催に努め、振興を進めたい。

イ 全国ビーチバレーボール中学2人制全国大会（令和6年8月24日～25日）

各都道府県代表として予選を勝ち上がった、あるいは所管の都道府県ビーチバレーボール連盟から推薦された代表チームによる中学生2人制のビーチバレーボール全国大会を碧南緑地ビーチコートで開催した。

令和6年度で4回目の開催となり、さらに日本バレーボール協会の主催事業として位置づけられ、全国大会として定着してきた。参加チームは、年々増加しており、男子42チーム、女子45チームが参加した。初日には碧南緑地ビーチコートにおいて一次予選及び二次予選を行い、2日目には碧南緑地ビーチコート及びトヨタ自動車衣浦工場のビーチバレーコートにおいて、予選結果別にクラス分けされた決勝トーナメントが行われた。高校生以上のカテゴリーの大会では2人制が原則であることから、中学生期から将来を見据えた試合ができる場として、全国でも貴重な大会として開催できた。

また、大会に併せて、碧南市の魅力を発信するとともに大会を盛り上げるため、市内飲食店によるキッチンカーやテント販売を行うマルシェを開催、10店舗が軒を並べた。

(2) ビーチサッカー

HEKINANカップ2024（令和6年10月12日～13日）

全国から選抜された一般男子の部6チーム、女子の部4チームによるビーチサッカーの全国選抜大会を開催した。ビーチサッカーは、ボールを浮かし空中戦が多くなるのが特徴で、オーバーヘッドキックなどが多用されアクロバティックな足技は大変見応えがある。初日の試合終了後には、市内サッカーチームに所属する小学生向けのビーチサッカークリニックを行い、100名程の小学生が参加した。トップ選手による技術指導や実技講習が行われ、子ども達のスキルアップ及びビーチコートに親しんでもらえる良い機会として有意義な時間がとられた。

また、令和6年度から小学生（U-12）の大会を新たに開催した。全国から出場チーム

を募り、地元のサッカー少年団を含め合計 8 チームが出場した。試合の合間に、技術向上のためのビーチサッカークリニックが開かれ、多くの小学生が参加した。

7 残されている課題【C】

スポーツ庁の定める第 3 期スポーツ基本計画では、スポーツの持つ役割の一つとして、地方創生やまちづくりといったことが記されている。競技振興と地域振興の好循環の実現が求められており、全国レベルの大会の誘致、開催がまちの賑わい資源となるような取り組みを引き続き検討していくことが課題としてあげられる。

全国から人を招くにあたり、本市では宿泊や交通の不便さについて意見が出るのが間々あるが、その上で、スポーツツーリズム（スポーツの観戦・参加を目的とした旅行・観光）の推進に工夫を凝らす必要があると考えている。例えば、試合会場に多くの地元企業に出店してもらい、地産品の消費、PR の場に繋げる等の取り組みを積極的に行っていきたいと検討している。スポーツ振興はもとより、産業振興や賑わいづくりへの波及効果の創出が図られるよう、様々な取り組みを継続的に行っていききたい。

8 外部評価者の評価【C】

ビーチバレーボール、ビーチサッカーともに、地域の商店街と連携した魅力の発信や新しい大会の開催など、意義のある取り組みが積極的に展開されていると思います。全国的にクラブチームが増え、中学生のビーチスポーツの大会が広がっていることは、関係各位のご尽力の成果であり、深く敬意を表します。ビーチコートのナイター設備の充実など施設・設備の面での取り組みと並行して、さまざまな機会を通じて競技振興と産業振興の好循環の確立に努めておられることは高く評価できます。今後も引き続き事業を推進し、碧南の魅力の全国発信と市民スポーツの充実・発展に貢献されることを望みます。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

碧南緑地ビーチスポーツ推進事業においては、特色ある施設の活用を軸に、引き続き競技関係者や地元企業、商店街、学校など様々な担い手と連携しながら全国大会等の開催等取り組みを進めてまいります。その中で、ビーチスポーツのさらなる普及振興を図り、併せて産業振興やシティプロモーションなど大会等を通じて地域活性化が図られることを目指します。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	5. 無我苑自主事業	所属課	文化財課（無我苑）
-------	------------	-----	-----------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策9 芸術・文化 ①自主運営事業の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
全国的にも珍しい哲学をテーマにした施設であり、その施設のよさを周知するとともに、様々な事業を通して、日常では得難い「哲学的なたいけん」を感じてもらえるような機会を提供する。
評価対象とした理由
施設の設置目的である市民の心の健康及び精神文化の醸成並びに文化交流の推進を図るため。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
6,105 千円	6,177 千円	6,176 千円

4 取り組みの内容【D】

自主事業名	実施時期	定員	参加者（延べ）	参加率
春のコンサート（2部制） 「碧の風ヴァイオリンコンサート」	4月20日	各50人	100人	100.0%
蓮如ウォーク協賛事業 「糸で葉っぱのキーホルダーをつくろう」	4月28日	40人	40人	100.0%
第1回哲学講座（無我苑開催） 「なぜ涙がでるのか」	5月18日	20人	講師都合により中止	
心と身体のバランスを整える指ヨガ教室 （全2回）	6月16日 6月30日	16人	15人	93.8%
和の歳時記教室 「古き道具に花を添える見立てを学ぶ」	6月28日 6月29日	各8人	12人	75.0%
折り紙教室 「着物の女性とハスの折り紙」	7月6日	15人	10人	66.7%
なんば提灯作り教室（2部制）	7月20日	各5人	10人	100.0%
第2回哲学講座（オンラインで哲学講座） 「親孝行するとは何をするのか」	7月27日	15人	12人	80.0%
納涼落語会	8月3日	50人	51人	100.2%
第3回哲学講座（無我苑開催） 「なぜ昔から「最近の若者は」と言われるの」	8月10日	20人	20人	100.0%
和の歳時記教室 「杉葉香を楽しむ」	8月30日 8月31日	各8人	16人	100.0%

梶谷真司ワークショップ 「問うとはどういうことか」	9月14日	20人	20人	100.0%
万華鏡作り教室	10月4日	10人	講師都合により 中止	
第4回哲学講座（無我苑開催） 「無駄は本当に無駄か」	10月19日	20人	20人	100.0%
はじめての琴教室	10月26日 11月2日 11月9日 11月16日	6人	6人	100.0%
第5回哲学講座（オンラインで哲学講座） 「人生を豊かにする AI との付き合い方は」	11月30日	10人	10人	100.0%
和の歳時記教室 「おめでたい植物たちでつくるお正月飾り」	12月20日 12月21日	各8人	16人	100.0%
新春コンサート（2部制） 「ケルトの響き アイルランドと音楽」	1月19日	各48人	96人	100.0%
碧南の歴史を学ぶ 「近世・近代の新川地区」	1月24日	16人	16人	100.0%
はじめての聞香教室 小鳥香	2月15日	20人	20人	100.0%
茶の湯文化講座「古田織部の人と書」	3月1日	28人	28人	100.0%
瞑想回廊展示関連事業ワークショップ				
宮寄祥子展 糸でミニランプシェードをつくろう	5月19日	20人	12人	60.0%
ポスターでたどる日本アニメ映画の世界 展 ギャラリートーク	2月9日 3月16日	—	60人	—
瞑想回廊展示関連連携事業				
西村一成絵画展 学芸員トークライブ 「西村一成の絵画—自分の知らないところ でとんでもないことが起きている」	8月17日	30人	50人	166.7%

5 達成度を測る指標

指 標	自主事業参加率				
指標の説明	講座等の定員に対する参加者の割合				
年 度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度
目標値	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%
実績値	90.5%	88.1%	97.3%		

6 取り組みの成果【C】

- (1) 再来苑者及び村民登録更新者の確保
 - ・新規村民登録者 47 人（前年度 39 人）
 - ・立礼茶席スタンプカード（20 服利用につき 1 服進呈） 299 枚が満欄となって使用された。（前年度 241 枚）
- (2) 魅力的な事業の実施
 - ・無我苑ならではの事業
立礼茶席の呈茶数が 14, 118 服（前年度 10, 642 服）で開苑以来最高となった。
涛々庵茶会を年 10 回、三曲定期演奏を年 12 回開催。
哲学講座を年間 3 回開催。
茶の湯文化講座を開催。
瞑想回廊展示作家によるワークショップを 2 回、関連イベントを 2 回開催。
 - ・地元に関連のある事業
春のコンサートは碧南市出身の方に出演いただいた。
碧南高等学校美術部の作品展を開催。（令和元年度開始で 6 回目）
碧南の歴史を学ぶ講座を開催。（令和 4 年度開始で 3 回目）
昔から碧南に伝わるなんば提灯を作る教室を開催。（令和元年度開始で 6 回目）
 - ・各種連携事業
梅原猛名誉村長紹介コーナーにおいて、作家の協力を受け連携展示実施。
- (3) 安心して安全に利用いただくために修繕等を実施
 - ・瞑想回廊 2 階南空調機修繕
 - ・瞑想回廊点字ブロック張替修繕
 - ・水道設備目隠し囲い壁設置修繕 等

7 残されている課題【C】

- (1) 施設の維持管理
開苑から 30 年が経過し、各施設が老朽化してきており、また、日本庭園の景観も崩れてきている。予算の制約がある中、優先順位をつけ施設管理を行っていく必要がある。
- (2) 再来苑者及び村民登録更新者の確保
引き続き、安心して利用いただける体制づくりや、魅力的な事業、特典を検討して行く。
- (3) 運営体制の見直し
利用者の実績等をふまえ、効率的な運営を行っていく。

8 外部評価者の評価【C】

排外主義や不寛容が世界的に拡大しているなか、人間の認識と存在の可能性の条件を問う哲学の役割はますます大きくなっています。このような状況のもと、令和 6 年度も、魅力あふれる企画が数多く実施され、また多くの市民が参加され、非常に意義深い活動が展開されていると思います。施設の維持・管理の面についても、厳しい財政状況のなか、来苑者の安全を第一に考えた持続可能な運営体制が検討されていることは高く評価できます。今後も充実した形で事業が継続されることを望みます。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

開苑30余年が過ぎ、施設の老朽化により修繕が必要な個所も多数ある中で、引き続き優先順位をつけて修繕を行っていく。とりわけ日本庭園の景観が崩れてきており、専門家の継続した指導を受けることができるように働きかけを行っていきたい。

来苑者や参加者の要望等を聞く中で、今後も無我苑ならではの事業を実施する。特に地域の学校等と連携するなど、子供を取り込めるような事業にも取り組みたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	6. 文化財の啓発事業	所属課	文化財課
-------	-------------	-----	------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策9 芸術・文化 ①自主運営事業の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
文化財は、地域の歴史、文化を理解するのに不可欠な地域の財産であり、その保存だけではなく、活用や情報発信を図ることが重要である。 文化財の調査・研究の成果を踏まえ、歴史系企画展を始めとする文化財の啓発事業を実施することで、文化財保護や郷土の歴史への理解を深め、愛着を持ってもらうことを目的とする。
評価対象とした理由
文化財の保護には、市民の理解と協力が必要不可欠である。そこで、文化財の存在及びその重要性を広く市民に知っていただくには、啓発事業の推進が重要であるため、そうした取り組みをしている事業などを評価対象とした。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
7,863千円	15,711千円	4,872千円

4 取り組みの内容【D】

(1) 歴史系企画展「没後100年 富岡鉄斎」の開催
ア 内容 世に「最後の文人画家」と称えられる富岡鉄斎が令和6年大晦日に没後100年を迎えることを機に、改めて彼の画業と生涯を回顧した展覧会である。鉄斎の碧南との関わりも併せて紹介した。
イ 期間 令和6年10月5日（土）～11月24日（日） 44日間
ウ 会場 藤井達吉現代美術館
エ 主催 碧南市・市教育委員会・藤井達吉現代美術館、清荒神清澄寺 鉄斎美術館、毎日新聞社
オ 協賛 ライブアートブックス
カ 観覧料 一般1,000円 高大生600円 中学生以下無料
キ 観覧者数 8,502人（5年度 4,226人 45日間） 1日平均観覧者 193.2人（5年度 93.9人）
ク 関連行事（会場はすべて藤井達吉現代美術館）
(7) 記念講演会「富岡鉄斎 万巻の書と万里の路」
期日 令和6年10月26日（土）
講師 梶岡秀一氏（京都国立近代美術館学芸課長）
参加者 56人
(4) 記念講演会「鉄斎の愛した旅と景色」
期日 令和6年11月16日（土）
講師 笠嶋忠幸氏（公益財団法人出光美術館学芸部次長）
参加者 60人

(ウ) ワークショップ「かすれる」×「にじむ」－鉄斎に学ぼう 水墨に挑戦－	
期日 令和6年10月5日(土)・6日(日)	
講師 藤井達吉現代美術館 教育普及担当	
参加者 21人	
(エ) 学芸員によるギャラリートーク(期間中8回開催) 参加者 計201人	
(オ) 小学校美術館学習(期間中)	
参加者 658人(市内小学校5年生及び教員)	
(2) 文化財展「碧南と鉄道」の開催	
ア 内容	幻となった鉄道計画や三河鉄道の歴史ななどに触れつつ、市域の鉄道について、市に収蔵される写真・資料などを中心に紹介した。
イ 期間	令和7年2月8日(土)～3月6日(木) 23日間
ウ 会場	文化会館
エ 観覧料	無料
オ 観覧者数	約1,600人(5年度 約1,000人) 1日平均観覧者 約69.5人(5年度 約34.5人)
カ ギャラリー・トーク(担当学芸員による展示説明会)	令和7年2月15日(土)50人、3月1日(土)35人
(3) 文化財防火デー行事の開催	
ア 内容	法隆寺金堂壁画が焼損した1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開している。当市においても、碧南消防署及び地元住民の協力のもと、119番訓練通報による模擬文化財の持出し訓練と住民参加による消火器取扱訓練を実施した。
イ 日時	令和7年1月16日(木)
ウ 場所	妙福寺(志貴町)
エ 内容	消防車による放水訓練、署員による消火器取扱説明
オ 参加者数	25人(5年度 20人)
(4) 古文書入門講座の開催	
ア 内容	「平家物語」や「寛政重修諸家譜」など、仮名文字や古文書を解説した。
イ 日時	令和6年5月29日、6月12日・26日、7月3日 すべて(水)
ウ 場所	藤井達吉現代美術館
エ 参加費	400円
オ 参加者数	延べ64人(5年度 延べ90人)

5 達成度を測る指標

指 標	1日当たりの観覧者数				
指標の説明	文化財を活用する事業の一環として実施した歴史系企画展、文化財展、文化財防火デー行事、古文書講座の1日当たりの観覧者数、参加者数。 (開催期間が画一的でなく比較可能にするため。)				
年 度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度
目標値	170人	170人	170人	170人	170人
実績値	127人	166人	304人	—	—

6 取り組みの成果【C】

(1) 歴史系企画展

令和6年度は、京都国立近代美術館・富山県水墨美術館との巡回展「没後100年 富岡鉄斎」を当館で開催したことから、平素の歴史系企画展観覧者数を大幅に上回る観覧者数となった。展示にあたっては、単純に巡回展とするだけではなく、富岡鉄斎が藤井達吉現代美術館の向かいにある九重味淋や林泉寺に逗留したことから、「富岡鉄斎と碧南」という小コーナーを準備して、碧南市で富岡鉄斎展を開催する意義について理解を深めていただいた。

会期中に、藤井達吉現代美術館はじめ大浜てらまち地区で催される「大浜てらまちウォーキング」の開催されたため当日は観覧無料にした。また市指定文化財であった鎌倉時代の仏画「絹本著色釈迦三尊像」が国指定重要文化財となったため、会期中に重要文化財新指定記念特別公開も併せて実施した。こうして、平素美術や歴史文化に触れることが少ない方々にその周知を図ることができた。

(2) 文化財展

この展示は、現在の名鉄三河線の前身にあたる三河鉄道時代の関連資料を始め、幻となった鉄道計画や三河鉄道の歴史に触れつつ、市に収蔵される写真や資料などを中心に紹介したものである。

当初は碧南市域をはじめ、名鉄三河線沿線の観覧者を見込んでいたが、SNSを通じていわゆる鉄道マニアの方々に周知されることとなり、結果として無料配布の解説書1,000部が早期に無くなり、ギャラリートークには、文化会館の展示室に入りきれない程の人々が詰めかけることとなった。

(3) 文化財防火デー行事

文化財防火デーは文化庁・消防庁主唱のもと全国的に展開されているもので、当市では毎年市域の1地区で文化財防火デーの行事を実施している。令和6年度は、棚尾地区の主要寺院で開催されたことや天候も落ち着いていたことから、例年と同じ規模で参加者に文化財防火に関し啓発することができた。

(4) 古文書入門講座

今年で10回目の開講となった。学芸員1名を講師として実施した。「平家物語」や「寛政重修諸家譜」など、NHK大河ドラマや地元に関わる史料を題材に、仮名文字や古文書を解説した。講座では一貫して分かりやすく伝えることに努め、受講者には一定の満足感が得られたと考えている。

7 残されている課題【C】

全国3会場の巡回展の一つとなった令和6年度の歴史系企画展は、先行する会場でのアナウンス効果もあり、1日平均観覧者が従前より大幅に増加した。その一方で、文化会館で実施した文化財展も健闘しており、前年度同様に企画展のテーマがなにより重要と感じる。文化財保護や郷土の歴史への理解を深め、愛着を持ってもらうという目的に照らし、今後もテーマ設定から実施に向けて取り組みを進めていきたい。

文化財防火デー行事は、文化庁・消防庁の主唱によって全国的に実施されているものであるが、文化財課も消防署との連携を図る良い機会となっており、例年どおり市内の各地区を回って、引き続き文化財防火運動を展開し、文化財保護に対する関心を高めたい。

継続して実施している古文書入門講座では、受講者のレベルが初学者と中級者に分かれる傾向があり、テキストの作成に迷うこともあるが、当面は両者の中間レベルを意識して講座を進めていきたい。

8 外部評価者の評価【C】

令和6年度も、歴史系企画展、文化財展、文化財防火デー行事、古文書入門講座という4つの柱で自主運営事業が進められ、それぞれの事業に多くの市民が参加されています。富岡鉄斎の巡回展では鉄斎と碧南とのつながりの解説に意を用いるなど、市民の精神生活の充実に努めておられることが分かります。今後も引き続き、SNSの活用やメディアとの連携による情報発信にも配意しつつ、事業を継続していただくことを望みます。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

歴史系企画展及び文化財展については、展示資料の紹介に留まらず、地域の歴史や文化を理解する目的を意識して事業を継続したい。また文化財防火デー行事や古文書入門講座は、地域住民や申込参加者に対し、文化財・防火への意識の向上や、くずし字の解説を通じて地域史料へ理解を深めていただく貴重な機会として取り組んでいきたい。また「SNSの活用やメディアとの連携による情報発信にも配意」したい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	7. 企画展開催事業	所属課	藤井達吉現代美術館
-------	------------	-----	-----------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策9 芸術・文化 ①自主運営事業の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
国内外の魅力ある優れた美術作品を紹介する企画展や、この地方を中心に活躍した作家や芸術文化に焦点を当てた企画展を開催する。また、藤井達吉の業績を顕彰するために収蔵されている作品を常設展示する。 これらを通じ、市民の芸術文化の向上を支援するとともに、ふるさと碧南に対する愛着や誇りを育むことを目的とする。
評価対象とした理由
市民に対して最も大きく働きかけるものは展示であり、市民に親しまれ、訪れたいくなるような美術館となるためには、魅力ある企画展と郷土が生んだ芸術家藤井達吉を顕彰する常設展の開催が必要不可欠であるため。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
51,475 千円	39,884 千円	57,721 千円

4 取り組みの内容【D】

<p>(1) 企画展</p> <p>令和6年度は「NEW FACE 2024 新収蔵品展」を所蔵作品展としては初めて有料で開催し、巡回展覧会として、「春陽会誕生100年それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」、単館による展覧会として「松本竣介《街》と昭和モダン—糖業協会と大川美術館のコレクションによる—」、「足利市立美術館所蔵・浅川コレクション 夢を追いかけた“前衛”の鼓動」を開催した。</p> <p>企画展数：令和6年度 5（すべて有料）（令和5年度 5（うち有料4））</p> <p>観覧者数：令和6年度 28,901人（令和5年度 31,313人）</p> <p>※歴史系企画展を含む。</p> <p>(2) 常設展</p> <p>5期に分け藤井達吉の多くの作品を展示した。</p> <p>観覧者数：令和6年度 23,892人（令和5年度 23,197人）</p> <p>(3) 共催展等</p> <p>第31回西三文協美術展、第37回碧南市野外彫刻絵画コンテスト入賞作品展、第16回碧南文化協会選抜美術展、HEKINANからそれぞれのスピリッツ展16th、るるる展、第6回碧南ビエンナーレを開催した。また、市民ギャラリーとして美術作品等を創作している皆さんの発表の場として多目的室Bを有料で開放した。</p> <p>観覧者数：令和6年度 4,608人（令和5年度 2,343人）</p>
--

5 達成度を測る指標

指 標	観覧者数				
指標の説明	企画展、常設展、共催展などの総観覧者数				
年 度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	12 年度
目標値	57,000 人	57,000 人	60,000 人	50,000 人	60,000 人
実績値	312 人	56,853 人	57,401 人	—	—

6 取り組みの成果【C】

(1) 企画展

令和6年度の企画展は、令和5年度に館蔵となった新収蔵作品を中心に紹介した「NEW FACE 2024 新収蔵品展」から始まり、近代日本絵画史の中でも圧倒的に人気の高い岸田劉生の麗子像も出品された「春陽会誕生100年それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」、「昭和モダン」をテーマに、公益社団法人糖業協会と公益財団法人大川美術館のコレクションから選りすぐった日本の近代洋画を紹介した「松本竣介《街》と昭和モダン—糖業協会と大川美術館のコレクションによる—」、コレクター浅川邦夫氏から足利市立美術館に寄贈された美術品の中から“前衛”（1960年代-70年代初頭）と呼ばれた時代に活躍した作家の作品を中心に紹介した「足利市立美術館所蔵・浅川コレクション 夢を追いかけた“前衛”の鼓動」など、幅広いジャンルの作品を観覧者に提供できた。新聞等のメディアへの広報活動やポスター掲示を行った結果、観覧者数は57,401人と令和5年度とくらべ若干増加となった。

イベントでは地元商店及び館内カフェとの連携に力を入れ、所蔵作品展以降の展覧会では、コラボスイーツやランチ、コラボ商品を提供したことで、館内カフェ及び地元商店の利用者が増加するなど大浜地域の回遊性の向上による賑わいが増加し、大浜地区の魅力も伝えることができた。その他、藤井達吉現代美術館を知っていただくために「大浜てらまちウォーキング」「県民の日学校ホリデー」では観覧無料とし多くの方へ来館して頂いたほか、愛知県が発行する県内26の美術館・博物館等に平日限定でお得に入館できる「あいち・なごや周遊観光パスポート」に参画し559人の方の利用があった。企画展のアンケートでは「とても良かった」「良かった」が約91%で令和5年度と比べ3%ほど高い数字となり、「普通」と回答した方は3%減った。美術館の建物が良い、音声ガイドが使いやすいなど好意的な意見のほか、子供にもわかりやすい、理解しやすい絵を展示してほしいとの要望もあった。

(2) 常設展

常設展は、美術館の名前を冠している藤井達吉の作品の良さを伝える絶好の機会である。そのため、あまり展示されていない作品や自然や食べ物、おめでたい絵画などテーマに工夫をこらし工芸品から日本画、陶芸作品などを紹介することができた。展示品に付した説明文をスマートフォンで案内する無料アプリ「ポケット学芸員」も引き続き運用している。

(3) 共催展

西三河及び碧南市の文化協会による展示や藤井達吉の創作魂を継承する作家の作品、碧南在住の作家による展示、野外彫刻絵画コンテストなどを開催し、市民に方へ来館していただく機会を提供することができた。

7 残されている課題【C】

大浜まちかどサロンとの共用駐車場として16台、美術館駐車場として16台の合計32台確保しているが主に土・日曜日は、大浜まちかどサロンの利用者も多く、美術館近くの駐車場が不足しがちになる。その際は徒歩7分の臨時駐車場などへ誘導しているが、館から少し離れていることもあり、特に天候の悪い日は駐車場に対する不満が来館者から寄せられている。現在適当な用地を交渉・探索中であるが、すぐに対応するのは難しい状況である。また、令和10年度にて築20年が経過するため、空調更新工事を計画的に進める必要があるが財政状況が厳しく財源確保が課題である。

8 外部評価者の評価【C】

令和6年度も趣向を凝らした企画展、常設展、共催展等が開催されており、またそれぞれの企画に多くの来場者があり、非常に意義深い活動が展開されていると思います。来場者数はもとより、企画展のアンケートで「良かった／とても良かった」という回答が9割以上を占めており、市民の精神生活の質の向上に大いに寄与していることがうかがえます。地域との連携や「周遊観光パスポート」への参加等、来場してもらえる工夫にも意が用いられていると思いました。今後も充実した形で事業が継続されることを望みます。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

碧南市の文化・芸術を発信する代表的な施設として、当館は地域の歴史に焦点を当てた歴史系企画展をはじめ、現代美術など様々な時代やジャンルの展覧会を引き続き提供する。また、地元である大浜地域や学校との連携を継続し、より一層市民に開かれた美術館となるよう努める。さらに、多くの市民の皆様が利用しやすくなるよう、市の広報誌に無料観覧券を掲載するとともに、市の公式LINEでも無料観覧券を発行し、若い世代から高齢者まで誰もが気軽に立ち寄れ、日常生活を豊かにする美術館となるよう取り組む。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	8. 教育普及事業	所属課	藤井達吉現代美術館
-------	-----------	-----	-----------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策9 芸術・文化 ②教育普及の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
幅広い世代の人々に美術に親しんでもらえるよう、様々な教育普及事業に取り組み、美術情報の提供に努める。また、学校教育を始め他の教育活動との連携を図っていく。
評価対象とした理由
教育普及事業は、美術館の理念の中で位置づけられている重要な事業の一つであるため。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
10,985 千円	12,728 千円	16,093 千円

4 取り組みの内容【D】

<p>(1) 講演会 各企画展において、講演会や記念対談を開催。 開催回数：令和6年度 5回（令和5年度 12回） 参加者数：令和6年度 255人（令和5年度 402人）</p> <p>(2) ギャラリートーク 当館学芸員により企画展の内容を分かりやすく解説し、市民の芸術文化の向上を支援するため、各企画展でギャラリートークを開催した。 開催回数：令和6年度 14回（令和5年度 12回） 参加者数：令和6年度 375人（令和5年度 359人）</p> <p>(3) ワークショップ 美術館に親しみを持ってもらい、創作活動の楽しみを味わってもらうため、子どもから大人まで楽しめるワークショップシリーズ、親子ワークショップシリーズ、企画展ごとの関連ワークショップなどを開催した。 開催回数：令和6年度 59回（令和5年度 63回） 参加者数：令和6年度 681人（令和5年度 819人）</p> <p>(4) 美術館学習 優れた美術作品を鑑賞する美術館学習を開催することで、豊かな感性や創造力を高めるとともに、将来にわたって芸術文化に親しむ心を育てることを目的に市内小学5年生が富岡鉄斎展を、中学1年生が浅川コレクション展を鑑賞した。 参加者数：令和6年度 1,361人（令和5年度 2,107人）</p>
--

5 達成度を測る指標

指 標	参加者数				
指標の説明	講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、美術館学習の合計参加者数				
年 度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	12 年度
目標値	1,500 人	1,500 人	3,000 人	2,500 人	2,500 人
実績値	1,835 人	3,687 人	2,672 人	—	—

6 取り組みの成果【C】

(1) 講演会

例年に引き続き、企画展の内容に精通した講師を全国から招き、より内容を掘り下げたものを開催できた。中でも、春陽会展開催記念クロストーク「春陽会の発信力」は68人、浅川コレクション展記念鼎談「魅力的なコレクションのエピソード」は54人と、複数の方々と語り合うスタイルのものが特に人気を博した。

(2) ギャラリートーク

学芸員がユーモアを交えるなど工夫をこらした説明により、作家や作品解説などを行うとともに参加者からの質問に対応し、作家や作品に対する理解を深めた。

(3) ワークショップ

ア 子どもから大人まで楽しめるワークショップでは、年中行事に合わせた内容のものや、外部講師を呼んでの陶器の箸置きづくり、シルクスクリーン印刷体験など、毎回様々なジャンルを用意し、個々の自由な発想を大切にした講座を開催した。

イ 企画展関連のワークショップでは、創作をとおして展覧会の内容やコンセプトに迫るプログラムを行った。春陽会展では、「物語の挿絵を描いてみよう」と題し、春陽会と同時代の作家、宮沢賢治作「銀河鉄道の夜」の一場面の挿絵制作を行った。また、浅川コレクション展では、アクリル板と絵の具を使って、デカルコマニー技法の体験をするなどした。

(4) 美術館学習

作品を見た際の自分の気持ちを整理・分析するワークシートの作成、対話型鑑賞を取り入れる等、児童生徒の美術鑑賞を深めるサポートができた。また学校とは話し合いも多く重ね、情報共有を図ることができた。

7 残されている課題【C】

講演会においては、5年度はリニューアルオープンの関係で開催回数が多かったが、6年度は通常の数に戻った形となっている。どの講演も一定の参加者数に達してはいるが、今後もこの状態を継続できるよう、企画内容・広報活動の充実を図っていかねばならない。

ギャラリートークについては、5年度に引き続き、一回あたりの平均参加者数が約26名と盛況であるが、気軽な対話形式のものなど、新たな試みを取り入れ、参加者が美術館に親しみを感じてもらえるものも開催していきたい。

ワークショップについても、5年度はリニューアルオープンに関連したイベント等により参加者数は膨れ上がったが、6年度は平常の数になっている。実施回数は同等に実施できたものの、1回あたりの平均参加者数が減少傾向にあるので、より魅力的で、充実感を得られるワークショップを開き、リピーター・新規参加者を増やしていきたい。

美術館学習については、教師向け・児童生徒向けアンケートを活用し、より満足度の高いものにしていきたいと考える。

今後とも、リピーターを増やし、継続的に美術館とのつながりを持っていただけるような活動を進めていきたい。

8 外部評価者の評価【C】

令和6年度も4つの柱で事業が進められており、それぞれ大きな成果を挙げていることがうかがえます。特に、美術館学習において児童生徒の鑑賞をサポートする工夫が行われている点が素晴らしいと思いました。一般市民向けのワークショップにおいても、制作や鑑賞をサポートする工夫をさらに深めていただけることを望みます。運営面では、財政状況が厳しいなか、美術館学習に参加する際の交通手段の確保に尽力されていることに敬意を表します。国内外で排外主義と不寛容が高まり、SNSがその傾向に拍車をかけているなか、自己表現や他者理解の重要性はますます大きくなっています。これからも児童生徒や市民の方に、表現や鑑賞の大切さを伝える企画を展開していただきたいと思います。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

「一般市民向けのワークショップにおいても、制作や鑑賞をサポートする工夫を」とのご意見をいただいたが、制作においては、技術面はもとより、心理面でも安心してのびのびと個性を発揮できる環境づくりに努めたい。また、鑑賞の時間をワークショップ内に意識的に設け、それぞれが違いや良さを感じられるような声かけ・雰囲気づくりを行うことで、内的な充実感や他者理解へも繋げられればと考える。

今後も、美術館と美術、教育普及活動を通して、自己表現や鑑賞の楽しさ、大切さを伝えるとともに、美術館が、市民の方々の一つの居場所となるような取り組みを進めていきたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	9. 水族館活動実施事業	所属課	海浜水族館
-------	--------------	-----	-------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策9 芸術・文化 ②教育普及の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
学校と連携するとともに、命ある教材を活用することにより環境に関心をもつ子供の育成に寄与する。また、近年の環境問題およびSDGsの取り組みに合わせ、西三河地方で絶滅の危機にある淡水生物の保護活動や自然観察会等の活動を通して、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくために必要な能力の育成を図ります。
評価対象とした理由
水族館設立当初から継続している事業である。今後も子供たちをはじめとした地域住民にとって意義ある事業として継続していくため。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
(1) 5,507 千円	(1) 4,949 千円	(1) 6,294 千円
(2) 26 千円	(2) 51 千円	(2) 85 千円
(3) 1,320 千円	(3) 1,661 千円	(3) 1,404 千円
(4) 3,519 千円	(4) 4,697 千円	(4) 5,957 千円

4 取り組みの内容【D】

(1) 水族館展示管理事業 展示生物の収集は、条件の良い時期に実施した。 (主な県外収集先：4月・12月に富山県、10月に高知県、2月に三重県、3月に広島県)
(2) 校外学習実施事業 ア 市内小学校2・4・6年生の水族館学習の要請に対応 受け入れ人数：延べ62件 1,965人（5年度：63件 1,982人） イ 来館する市外学校関係の要請に応じる講話、実習等（5年度：21件） 受け入れ人数：中学生職場体験 9件9人 大学生博物館実習 1件4人 大学生・専門学校生水族館実習 4件4人
(3) 博物館教育普及活動事業 ア 教育普及活動（バックヤードツアー、写生大会、フォトコンテスト、自然観察会、サマースクール、工作教室） 参加者数：16件 5,964人（5年度：16件 3,489人） イ 市外学校団体およびその他団体の要請により実施した教育普及活動 (講話、ワークシート、バックヤードツアーなど) 対応件数59件 2,597人 ウ 希少淡水生物等の繁殖数（令和6年度実績） ニホンイシガメ：4、ヤリタナゴ：29、ミナミメダカ：210、ネコギギ：4、ウシ

モツゴ：352、カワバタモロコ：475、イタセンパラ：50、トウカイヨシノボリ：1

(4) 特別展開催事業

夏の特別展「水族最強決定戦（R6.7.20～R6.9.29）」、冬の特別展「しましま みずたまぐるぐる（R6.12.21～R7.2.24）」開催。特別展開催期間の観覧者数：計2件 延べ86,257人（5年度：計2件 延べ106,635人）

5 達成度を測る指標

指 標	(1) 市内外学校関係団体からの要請に対する対応件数 (2) 開催延べ日数 (3) 水族館入館者数				
指標の説明	(1) 市内外学校の校外学習・出張授業等要請への対応件数 (2) 特別展、イベント等の開催延べ日数 (3) 水族館の入館者数				
年 度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	12 年度
目標値	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 145 件 (2) 500 日 (3) 200,000 人
実績値	(1) 94 件 (2) 386 日 (3) 224,814 人	(1) 98 件 (2) 318 日 (3) 209,825 人	(1) 144 件 (2) 498 日 (3) 192,925 人	—	—

6 取り組みの成果【C】

令和6年度は、計画した事業についておおむね実施することができた。大きな事業としては、老朽化が進む2階展示エリアを2か年計画で改修する予定で、令和6年度では設計業務を終了している。他に、塗装の剥がれやクラックの進行が著しい外壁の改修工事を実施した。来館者の満足度の向上を目的に整備したミュージアムショップについても、オリジナル商品の充実を図り非常に好評である。それにより、入館者は歴代7番目、入館料収入では過去2番目の多さを記録することができた。

(1) 資料収集事業

三河湾、伊勢湾を中心とした海水魚をはじめとして、国内に生息する淡水魚や両生類、爬虫類など、合計で301種、3,959点（令和7年3月31日現在）の生物を展示できた。大水槽の展示を充実させるため、マアジを1,000個体搬入したほか、大型のナルトビエイ3個体を搬入し、より迫力あるイメージを印象付けることができた。また、春先の桜が咲く時期にサクラダイを展示するなど、季節を意識した活動により来館者の関心を高める展示を提供することができた。

(2) 校外学習実施事業

市内の小学2・4・6年生の学習受け入れについて、計画どおり実施することができた。他には、中学2年生の職場体験学習についても、例年同様に対応することができた。その他例年実施している、市内小学4年生を対象とした「ヤドカリとイソギンチャク」の訪問授業では、生きたヤドカリを教材として使用し、より効果的な学習を提供している。

(3) 博物館教育普及活動事業

博物館実習、水族館実習については、今年度も予定どおり実施することができた。

その他、学校団体およびその他の団体に対して実施している学習活動（講話、ワークシート、バックヤードツアーなど）についても受け入れ人数が大幅に増加した。自然観察会では

「海を漂うクラゲを探しに行こう！」や工作教室「みんなの手が魚になるよ！」など、新しいテーマでの学習プログラムも好評で多数の方々にご参加していただいた。

(4) 特別展開催事業

夏の特別展「水族最強決定戦」では、体のサイズや泳ぐスピード、巧みな隠れ方など、それぞれの項目に特化した生き物をピックアップして、対決やランキング形式で紹介した。冬の特別展では「しましま みずたま ぐるぐる」と題して、体の模様や体色に焦点を当て、見た目の面白さを通じて、生き物の魅力を再発見できるような内容を紹介した。冬の特別展では、未就学児が興味を示すように、分かりやすく感覚的に理解できるような内容に心掛けて展示を行った。また、冬の特別展では来館者にアンケートを実施したが、展示の満足度は86%であり、親子連れの家族を中心に好評を得た。

7 残されている課題【C】

(1) 資料収集事業

生物の飼育管理業務は日々変化する生物の健康状態により合わせた対応が求められる。その多忙な飼育業務と並行して生物収集を進める必要があり、それぞれに割り当てる時間の確保が年々難しくなっている。

併せて、開館直後から長年入手協力をしていただいた漁師の高齢化、廃業や工事等により、生物の確保が今まで以上に難しい状況となっている。

(2) 校外学習実施事業

学校行事（遠足、見学学習など）は、市内外を問わず時期が被るため、来館時期が集中することから、職員対応に苦慮している。対応が難しい場合には、水族館のワークシートを活用した学習プログラムの利用を促すなど、工夫しながら対応している。水族館学習では市所有のバスを使用しているが、近年、市主催行事でのバスの需要の高まりから配車や運行調整が難しい場合がある。

(3) 博物館教育普及活動事業

実習については、募集対象が中学生、専門学校生、大学生と多岐にわたるため、年々希望件数は増えているが、対応する人員確保ができないため、受け入れ期間と定員を決めて対応している。

また、自然観察会等の屋外活動は、参加者に対する熱中症対策が求められるため、開催日の設定や休憩場所の確保など運営に苦慮する要素が増えてきており、実質的な活動内容が制限されている。

(4) 特別展開催事業

特別展会場は水族館の常設展示エリアの一面を使用している状況であるため設営作業に制約が多くなっている。将来的には多目的ホール等の設置が求められる。また、近年の物価高騰により、会場の開催費用も年々高額になりつつある。費用対効果を考え、展示内容や仕様の見直し、開催期間を延長するなどの工夫が必要である。また、業者への委託内容の中から、自前でやれる部分を検討してアイデアと工夫で特別展内容のグレードを下げないような努力が必要である。

(5) その他

生物の飼育環境について、動物福祉の観点から、十分な展示スペースの確保や、健康管理、給餌方法、衛生管理等について、今まで以上に対応が求められており、館の運営を取り巻く環境は年々変化している。

施設面においても、開館して42年が経過しており、至る箇所で老朽化が著しくなっている。施設の長寿命化を図るうえで、計画的なメンテナンスは必要不可欠で、修繕箇所の優先順位を検討し、必要に応じて臨時休館を設けながら、計画的に進める必要がある。

8 外部評価者の評価【C】

令和6年度も、4つの事業を柱として創意工夫をこらした活動を進められており、それぞれ大きな成果を挙げていることがわかります。学校行事や実習など、外部からの希望が多く寄せられるのに対し、人員と予算の不足に苦慮しながらも、知恵を絞って対応されている点に敬意を表します。また、来館者数の増加のみならず、来館者の経験の質の向上にも意を用いておられる点、さらには中長期的な計画のもとで施設・設備の維持管理を進めておられる点も高く評価できます。今後も、水生生物とのよりよい共存に資する形で事業が継続されることを望みます。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

当館は、教育施設であり、また、西三河唯一の水族館でもあるので、碧南市内だけではなく周辺市町を含む学校の教育活動に資する行事を積極的に行っていく。この活動を行うことによって、個人として来館する者を増やすことにつなげる。

施設・設備の維持管理については、来館者の満足度向上のために、今後も計画的に行っていく。また、日常的な点検を継続的に行い、必要があれば臨時的に修繕を行う。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	10. 図書館利用拡大のための事業	所属課	生涯学習課 (市民図書館)
-------	-------------------	-----	------------------

1 第6次総合計画での位置づけ

第7章 基本施策 施策分野2 基本施策9 芸術・文化 ⑤施設の特色を活かした運営
--

2 事業の目的・理由【P】

目的
赤ちゃんからお年寄りまで、誰でも気軽に利用できる文化施設として、利用者の生涯学習活動や趣味・娯楽等の知的好奇心に応えられるサービスや資料の提供に加え、おはなし会や調べ学習講座などの事業を通じて利用者の日常生活に役立つ施設づくりを目指す。
評価対象とした理由
平成28年度に策定した『碧南市の図書館サービス計画（第二次）』では基本理念を「そこに行くのが楽しくなる図書館をめざして」としており、利用者が快適に利用でき、知的好奇心を満たすことができる図書館、また市民と協働で事業・行事を行い、利用者と共に歩む図書館を目指すため。

3 事業費

5年度決算額	6年度決算額	7年度予算額
26,354 千円	26,436 千円	26,146 千円

4 取り組みの内容【D】

<p>(1) 定例的に実施している「おはなし会」「おひざにだっこのおはなし会」「絵本の時間」始め、「こどもとしょかんまつり」（6月）、「夏休み行事」（7～8月）、「へきにやごまつり」（10～11月）「クリスマスおはなし会」（12月）など年間通して様々な行事を行った。</p> <p>(2) 市民ボランティア関連として、「おはなしボランティア養成講座」（5月）「音声訳ボランティアレベルアップ講座」（12月～2月）を開催し、市民ボランティアの養成を図った。</p> <p>(3) 基本理念「そこに行くのが楽しくなるような図書館をめざして」実現のため、子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の市民が図書館を楽しめる行事を行った。昨年度は「図書館の裏側へGo」「夕暮れ時のおはなし会」などを行った。また、他機関とのコラボ企画として、中部分館で碧南警察署の協力による「みんなでこうつうあんぜん」を行った。その他、大人向け行事として、初心者に向けた俳句講座「はじめましての俳句講座」（6月）や「似顔絵講座」（11月）を開催した。</p> <p>(4) 2階子どもフロアの蔵書検索用パソコンの利用者増に対応するため、利用者用検索機1台を増設した（2月より）。</p> <p>(5) 電子図書の利用促進を図るため、秋の読書月間中に使い方講座（11月）を開催した。</p> <p>(6) 本に親しみ、市民の知的好奇心を喚起し実生活に役立つ情報を入手できるように、新たな資料を受け入れた。</p>
--

5 達成度を測る指標

指 標	(1) 図書館貸出利用者数 (2) 市民登録者数				
指標の説明	(1) 図書館で資料貸出を行った人数 (2) 利用者カードの登録者数（市内在住者）				
年 度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	12 年度
目標値	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人
実績値	(1) 130,959 人 (2) 33,841 人	(1) 137,548 人 (2) 34,578 人	(1) 135,186 人 (2) 32,569 人		

6 取り組みの成果【C】

<p>(1) 令和6年度の貸出利用者（資料貸出を行った延人数）は135,186人で前年比約1.7%減少。また、令和6年度中に長期間利用実績のない登録者データを一括削除したため、市内在住登録者の実績値は前年より約2,000名減少しているが、年間の市内在住者の新規登録者は772名あった。</p> <p>(2) 図書館入館者は全館合計221,278人で前年比0.8%増。令和5年（2023年）度219,427人、令和4年度（2022年度）203,371人、令和3年度（2021）196,804人。入館者は増加している。</p> <p>(3) 定例的な行事以外に、通常とは異なる図書館の雰囲気味わえる「図書館の裏側へGo」「夕暮れ時のおはなし会」を実施。また、中部分館では碧南警察署の協力を得て「みんなでこうつうあんぜん」を行った。「裏側へGo」は21名、「夕暮れ時」は47名、「こうつうあんぜん」は62名の参加があった。参加者からは「普段は入れない部屋にはいれて楽しかった」という声や「パトカーが見れて楽しかった」という声があった。また、大人向け講座の俳句講座は定員20人、似顔絵講座が12名（実際の申込は定員の15名）の参加があった。</p> <p>(4) ボランティアに関する講座「おはなしボランティア養成」は17名、「音声訳ボランティアレベルアップ講座」は9名の参加があった。</p> <p>(5) 2階の蔵書検索用パソコンが使用中で使えないということが少なくなった。</p> <p>(6) 電子図書のタイトル数は令和7年3月末で2,937点。年間で2,968冊の貸出があった。</p> <p>(7) 新たな資料受け入れ点数は12,586点、除籍等の数は9,125点であった。蔵書更新率（*1）は3.7%、蔵書新鮮度（*2）は2.2%となった。（令和5年度受け入れ点数10,728点、除籍等の数7,409点、更新率3.1%、新鮮度1.8%）。</p> <p>（*1）蔵書更新率：（新規受入冊数＋除籍冊数）÷年度末蔵書冊数</p> <p>（*2）蔵書新鮮度：新規受入冊数÷年度末蔵書冊数</p>	
---	--

7 残されている課題【C】

<p>(1) 入館者数は増加しているが、貸出利用者が減少した。比較対象となる令和5年度は開館30周年記念行事を行ったことが利用者数に影響したと考えられる。人口数が横ばいからやや減少傾向にあること、全国的な少子高齢化により、図書館の利用者も幼児・児童が減少し熟年層が増加している感がある。今後も市民の生涯学習施設、情報提供施設として増加が見込</p>
--

まれる利用者層を意識した活動や行事实施が必要である。（例：大きな活字の本の購入、大人向け行事の企画、館内のイスや机など読書スペースの再編など）

- (2) 図書館に来た経験のない市民をどう図書館へ来ていただくか？の課題解決手段のひとつとして他機関とのコラボを実施している。行事や展示内容を工夫し「図書館へ行ってみよう」という動機を作ることで、図書館を継続して利用いただける機会となる可能性があるため、今後も様々な行事を実施する。
- (3) 図書館友の会が令和6年度で活動を停止した。そのため、昨年度より図書館の利用が少ない世代へのアピールを兼ねて市内の高校を通じて生徒に行事手伝いを依頼し、3名の参加があった。参加数は少ないが、行事の内容や時期を検討し市民協働の場を設ける必要がある。
- (4) 電子図書の貸出が増加しているが、今後も貸出利用増加のため新刊購入だけでなく、新規利用者の開拓、システム内の情報更新を行い既存図書の活用を行い電子図書の利用増加を図る。また、碧南市に関する資料のデジタル化を行い電子図書として保存・公開を推進する。
- (5) 団体用資料の消耗が激しいため、新しい資料を補充する。また、外国語を母国語とする利用も近年増加しているため、外国語で書かれた資料の充実を図る。
- (6) 蔵書新鮮度がほぼ横ばいであるが、新しい資料が呼び水となり古い資料も貸出されるため、新しい資料の割合が一定数保たれるよう、資料費を確保する。

8 外部評価者の評価【C】

令和6年度も、市の基本理念にもとづいて魅力ある図書館づくりに尽力されていることがうかがえます。「図書館の裏側へ Go」「夕暮れ時のおはなし会」は、魅力ある図書館づくりという点でとても工夫が感じられます「友の会」の活動が休止となったことは残念でしたが、市民ボランティアを養成したり、新しく高校生に協力を呼びかけたりするなど、さまざまな形で市民とともにつくる図書館を目指しておられる点は非常に意義深いことだと思います。今後も、生涯学習施設としての活用や他機関とのコラボレーションなどを含め、さらに充実した形で事業が展開されることを望みます。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

地域の情報拠点として、また、市民の知る権利、学習する権利を支援する施設として図書館の役割は大きいという認識のもと、基本理念「そこに行くのが楽しくなるような図書館をめざして…」に則り、様々な取り組みを実施していきます。

様々な行事を実施して新たな利用者の広がりを目指します。行事は親子で楽しめるもの（お話し会等）、大人が楽しめるもの（図書館講座）を継続して実施していきます。他部署と連携しながら、内容・開催時期について検討し、図書館利用に結び付くかどうか留意し企画していきます。

また、図書館運営の協力者（ボランティア）を増やすため、おはなしボランティアや音声訳ボランティア養成講座を引き続き行っていきます。なお、高校生ボランティアについても継続して協力して頂けるよう依頼をしていきます。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

6 総合計画の施策に対する取り組み

令和6年度に各課・各施設が実施した事業について、総合計画及び教育大綱の主要施策の方向ごとに整理し一覧にしました。複数の施策に該当する事業は、もっとも該当すると思われる施策に整理しました。

(1) 学校教育

① 教育内容や環境の充実（71事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育、職場体験学習を継続的に行い児童生徒の社会性の育成を図ります。 ●小学校外国語の教科化に対応するために、外国語指導助手の派遣や小学校英語専科非常勤講師を配置し、教育体制の充実を進めます。 ●生徒指導対応非常勤職員の配置を行い、教育環境の充実を図ります。 ●不測の事態に伴う学校休業を想定した、学びの保障について対策を進めます。 		
事業内容	担当課等	庶務課
1 教育委員会運営事業	2 教育委員会点検評価事業	
3 庶務課事務管理事業	4 学校基本調査事業	
5 遠距離通学児童通学費補助事業	6 私立高等学校等授業料等補助事業	
7 まなびさぼーと資金支給事業	8 まなびさぼーと基金積立事業	
9 まなびさぼーと資金支給審査会運営事業	10 学校等情報配信事業	
11 教材整備事業（小学校）	12 図書整備事業（小学校）	
13 小学校要保護準要保護児童援助事業	14 小学校特別支援教育就学奨励事業	
15 教材整備事業（中学校）	16 図書整備事業（中学校）	
17 中学校要保護準要保護生徒援助事業	18 中学校特別支援教育就学奨励事業	
事業内容	担当課等	学校教育課
1 学校教育課事務管理事業	2 小中学校副読本等充実事業	
3 小中学校指導用資料充実事業	4 小中学校教科書改訂対応事業	
5 小中学校文化部運動部代表派遣事業	6 音楽会実施事業	
7 特別支援教育・通級教室実施事業	8 生き方発見チャレンジ活動事業	
9 外国人児童生徒指導事業	10 特別支援教育推進事業	
11 学校生活支援事業	12 指導法改善事業	
13 学校教育力向上指定研究委託事業	14 療休等緊急対応代替教職員配置事業	
15 少人数指導授業推進事業	16 小学校外国語活動・外国語科事業	
17 学校図書館活動推進事業（司書職員）	18 中学校英語科事業	
19 中学校生徒指導対応充実事業	20 小中学校ハートフレンド派遣事業	
21 学校教育研究等受託事業	22 小学校みどりの学校実施事業	
23 中学校みどりの学校実施事業	24 日本語教育支援充実事業	
25 小学校英語専科事業	26 緊急時対応修学旅行支援事業	
27 養護教諭非常勤講師配置事業	28 養護教諭支援員配置事業	
29 小学校災害賠償補償給付事業	30 新川小学校教材費配分事業	
31 中央小学校教材費配分事業	32 大浜小学校教材費配分事業	

33 棚尾小学校教材費配分事業	34 日進小学校教材費配分事業
35 鷺塚小学校教材費配分事業	36 西端小学校教材費配分事業
37 中学校災害賠償補償給付事業	38 新川中学校教材費配分事業
39 中央中学校教材費配分事業	40 南中学校教材費配分事業
41 東中学校教材費配分事業	42 西端中学校教材費配分事業
43 保健体育事務管理事業	44 小学生健康診断事業
45 小学校教職員健康診査事業	46 中学生健康診断事業
47 中学校教職員健康診査事業	48 小学校就学時健康診断事業
49 学校環境管理事業	50 日本スポーツ振興センター事業
51 中学校部活動外部講師委嘱事業	52 学校部活動地域移行支援事業（運動部）
53 学校部活動地域移行支援事業（文化部）	

② 支援の必要な児童生徒への支援の充実（16事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●スクールアシスタントを必要がある小学校に配置し、特別な支援が必要な児童に対する支援の充実を図ります。 ●日本語初期指導教室の開設や通訳のできるスクールアシスタントの配置をし、外国人児童生徒の支援を行います。 ●心の教室相談員の配置や、ハートフレンドの派遣、派遣型スクールカウンセラーの活用など、各機関が連携して不登校等の対策を進めます。 		
事業内容	担当課等	学校教育課
1 教育相談事業	2 小中学校心の教室相談事業	
3 小学校スクールカウンセラー活用事業	4 学校生活支援事業	
5 新川和太鼓クラブ充実事業（新川小学校）	6 中央小いきいきふれあい活動事業（中央小学校）	
7 地域の伝統と文化を引き継ぐクラブ活動事業（大浜小学校）	8 地域と連携した藤井達吉子ども美術館づくり事業（棚尾小学校）	
9 日進ふれ愛生き生きランド事業（日進小学校）	10 F B C 活動事業（鷺塚小学校）	
11 エコクラブによる油ヶ渚の水質調査活動事業（西端小学校）	12 地域とのふれあいを深める活動（陶芸・園芸）（新川中学校）	
13 「敬と愛」を高める体験・交流活動事業（中央中学校）	14 ICT 活動での不登校対応及び ICT スキル習得事業（南中学校）	
15 地域の人とふれあい豊かな心を育む緑化活動事業（東中学校）	16 地域協働の学校づくり事業（西端中学校）	

③ 教員研修の充実（4事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●教育課題（いじめ対策、ICT教育等）への対応のための教員研修を実施します。 ●教員の資質向上のために教員研修指導員を配置して研修の充実を図ります。 		
事業内容	担当課等	学校教育課
1 現職教育研修委託事業	2 学校教職員研修事業	
3 教職員研究指導委託事業	4 教育研究室・教育論文募集事業	

④ 学校施設の整備・充実（31事業）

主要施策の方向		
<p>●学校にICT機器等を整備し、児童生徒の情報活用能力を育成するための学習環境の充実を図ります。</p> <p>●老朽化が進んだ学校施設について適切な維持管理と計画的な改修を行い、長寿命化を図るとともに安心安全かつ快適な教育環境の整備を行います。</p>		
事業内容	担当課等	庶務課
1 新川小学校管理費配分事業	2 中央小学校管理費配分事業	
3 大浜小学校管理費配分事業	4 棚尾小学校管理費配分事業	
5 日進小学校管理費配分事業	6 鷺塚小学校管理費配分事業	
7 西端小学校管理費配分事業	8 小学校施設維持管理事業	
9 小学校スクールヘルパー派遣事業	10 小学校管理用備品整備事業	
11 小学校施設長寿命化事業	12 小学校管理費臨時事業（庶務課分）	
13 図書室OA化事業	14 小学校教育用コンピュータ運営事業	
15 小学校校内LAN運営事業	16 小学校GIGAスクール構想推進事業	
17 新川中学校管理費配分事業	18 中央中学校管理費配分事業	
19 南中学校管理費配分事業	20 東中学校管理費配分事業	
21 西端中学校管理費配分事業	22 中学校施設維持管理事業	
23 中学校スクールヘルパー派遣事業	24 中学校管理用備品整備事業	
25 中学校施設長寿命化事業	26 中学校管理費臨時事業（庶務課分）	
27 中学校教育用コンピュータ運営事業	28 中学校校内LAN運営事業	
29 中学校GIGAスクール構想推進事業		
事業内容	担当課等	学校教育課
1 小学校ICT支援員配置事業	2 中学校ICT支援員配置事業	

⑤ 安全な給食の提供及び食育の推進（14事業）

主要施策の方向		
<p>●衛生教育の実施、食中毒・異物混入対策マニュアルの充実など食の安全に関する取り組みを進め、児童生徒に安全な給食を提供します。</p> <p>●「碧南人参の日」等の記念日に合わせて地元産の食材を使用し、児童生徒の食材への関心を高めることで地産地消の取り組みを推進します。</p>		
事業内容	担当課等	庶務課（給食センター）
1 学校給食事務管理事業	2 学校給食費徴収事務業務委託事業	
3 施設維持管理事業	4 器具維持管理事業	
5 器具整備事業	6 給食センター運営審議会運営事業	
7 調理・洗浄器具等整備事業	8 給食業務職員管理事業	
9 賄材料調達事業	10 食器具・食材料検査事業	
11 給食残さ資源化事業	12 学校給食配送事業	
13 ㈱ヘキサシイカンパニー委託事業	14 学校給食費臨時事業	

(2) 生涯学習・スポーツ

① 地域と連携した生涯学習の推進（22事業）

主要施策の方向		
<p>●HEXPO STAFF、子ども会、青少年育成推進員など、生涯学習活動に関わる団体相互の連携を強化します。</p> <p>●家庭や地域の教育力向上を図るため、親子の共同体験や家庭教育に関する学習機会の提供に努めるとともに地域と連携した取り組みを推進します。</p>		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 社会教育事務管理事業	2 社会教育委員会議運営事業	
3 子ども会活動推進事業	4 碧南市青少年育成市民会議事業	
5 青少年育成推進員活動事業	6 二十歳を祝う会実施事業	
7 プレイメイト活動事業	8 青少年問題協議会運営事業	
9 HEXPO STAFF 活動事業	10 碧南市スカウト育成連絡協議会補助事業	
11 碧南市女性団体連絡協議会補助事業	12 親子ふれあい活動推進事業	
13 地域「おやじの会」活動事業	14 PTA活動事業	
15 放課後子ども教室推進事業	16 新川公民館運営審議会運営事業	
17 中部公民館運営審議会運営事業	18 大浜公民館運営審議会運営事業	
19 棚尾公民館運営審議会運営事業	20 日進公民館運営審議会運営事業	
21 鷺塚公民館運営審議会運営事業	22 西端公民館運営審議会運営事業	

② 生涯学習機会の拡充（10事業）

主要施策の方向		
<p>●多様化するニーズに応じた、魅力ある講座を開催します。</p> <p>●各種講座の終了後、受講者が新たな団体として活動を継続できるよう支援します。</p> <p>●文化祭事業を始め、文化会館ホールなどを利用して成果を発表する場を提供します。</p>		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 文化祭実施事業	2 ODOROMA I 実施事業	
3 講座・講演会等開催事業	4 新川公民館自主文化事業	
5 中部公民館自主文化事業	6 大浜公民館自主文化事業	
7 棚尾公民館自主文化事業	8 日進公民館自主文化事業	
9 鷺塚公民館自主文化事業	10 西端公民館自主文化事業	

③ スポーツの推進体制の強化（20事業）

主要施策の方向		
<p>●スポーツ協会を始めとする関連団体の支援に努めるとともに、学校体育や企業、スポーツチームを含む各団体間の連携を強化し、スポーツの裾野拡大を図ります。</p> <p>●指導者の育成と資質向上により、安定的かつ継続的にスポーツができる環境の整備を行います。</p>		
事業内容	担当課等	スポーツ課
1 学校体育事務管理事業	2 学校体育行事实施事業	
3 社会体育事務管理事業	4 スポーツ選手強化委託事業	
5 スポーツ推進審議会運営事業	6 スポーツ推進委員会運営事業	
7 碧南市レクリエーション協会補助事業	8 碧南市スポーツ協会補助事業	

9 碧南市スポーツ少年団補助事業	10へきなん総合型スポーツクラブ補助事業
11 地域スポーツ推進事業	12 スポーツ指導者養成事業
13 スポーツ推進計画推進事業	14 万博メモリアル駅伝出場委託事業
15 スラックライン全国大会実施補助事業	16 JFAこころのプロジェクト「夢の教室」実施事業
17 中学校部活動支援事業	18 スケートボード大会実施補助事業
19 臨海体育館事務管理事業	20 オリンピック・パラリンピック出場選手応援事業

④ スポーツに触れる機会の拡充（12事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ教室や手軽な健康づくり講座の開催など、市民がスポーツに触れる機会を提供することにより、健康寿命の延伸に努めます。 ●年齢や体力さらには障害の有無に応じ、生涯にわたりスポーツを楽しめる環境の整備に努めます。 ●ニュースポーツ・若者向けスポーツを始めとした魅力あるスポーツ事業を実施することにより、スポーツの推進と地域の活性化をめざします。 ●スポーツ施設の魅力を積極的にPRし、利用促進をめざします。 		
事業内容	担当課等	スポーツ課
1 各種レクリエーション・スポーツ大会実施事業	2 市民駅伝大会委託事業	
3 へきなんマラソン実施事業	4 市民スキー大会実施事業	
5 西三河大会実施事業	6 市民スポーツ大会実施事業	
7 スポーツ教室開設事業	8 学校体育施設開放事業	
9 碧南市新体操発表会実施事業	10 大型ヨット体験乗船事業	
11 全国女子軟式野球選抜交流大会実施事業	12 碧南緑地ビーチスポーツ推進事業	

⑤ 生涯学習・スポーツ施設の維持管理・整備（22事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習関連施設やスポーツ施設の計画的な維持・管理を行うとともに、利用者の安全はもとより、利便性の高い施設・設備となるように整備・改修を進めます。 ●碧南緑地におけるスポーツ施設の整備については、アジア・アジアパラ競技大会後の利用を見据えつつ、費用面を含めあらゆる観点から調査・研究を進めます。 		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 文化振興基金積立事業	2 新川公民館事務管理事業	
3 中部公民館事務管理事業	4 大浜公民館事務管理事業	
5 棚尾公民館事務管理事業	6 日進公民館事務管理事業	
7 鷺塚公民館事務管理事業	8 西端公民館事務管理事業	
9 社会教育公民館施設維持管理事業	10 棚尾公民館施設維持管理事業	
11 棚尾公民館臨時事業	12 日進公民館臨時事業	
13 文化会館・中央公民館事務管理事業	14 文化会館・中央公民館施設維持管理事業	
15 文化会館中央公民館費臨時事業		
事業内容	担当課等	スポーツ課
1 社会体育施設維持管理事業	2 体育施設整備事業	
3 スポーツ振興基金積立事業	4 勤労者体育センター維持管理事業	
5 臨海体育館施設維持管理事業	6 臨海体育館器具維持管理事業	
7 臨海体育館費臨時事業		

(3) 芸術・文化

① 自主運営事業の充実（14事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●各施設の特性を生かした魅力ある事業を行うことで、まちの芸術文化環境を個性あるものにし、若い世代が新しい文化を創造しやすい地盤を育てます。 ●地域の歴史や伝統文化の調査研究を進め、積極的に文化財指定を行い、貴重な文化財の継承・保存を推進し、潜在的な文化資源を掘り起こすとともに、公開などの活用を図ります。 ●各施設が地域文化活動の拠点になるよう、市民同士の交流を深める事業やボランティア活動を支援する事業などを展開します。 ●自由な発想の事業を行うため、施設の枠にとらわれず施設間連携を深め、より充実した企画を実施します。 		
事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
1 図書館協議会運営事業	2 図書館用図書整備事業	
3 図書館利用促進事業	4 ボランティア活動推進事業	
5 南部分館運営事業	6 中部分館運営事業	
事業内容	担当課等	文化財課
1 文化財保護審議会運営事業	2 市史資料調査事業	
3 文化財調査事業	4 指定文化財保存事業	
事業内容	担当課等	文化財課（無我苑）
1 無我苑運営事業		
事業内容	担当課等	海浜水族館
1 水族館協議会運営事業		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 美術館事務管理事業	2 美術館協議会運営事業	

② 教育普及の充実（2事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●学校や園と連携した事業を積極的に行うことにより、子どもが芸術文化に興味を持つきっかけを作り、地域の歴史や自然環境の大切さを伝えることで、将来の地域文化の担い手の育成を図ります。 ●何度訪れても魅力を感じさせる施設作りのために、企画や展示コーナー等を刷新し、得た知識や教養が市民や地域に活用されることをめざします。 		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 美術品運営事業	2 彫刻維持管理事業	

③ 情報発信の強化（2事業）

主要施策の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ●各施設はホームページやSNSを利用し、本市ならではの情報を公開し、施設の魅力や地域文化のイメージを高めるよう情報発信をするとともに、市民の意見を収集し、施設の運営に反映します。 		
事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
1 図書館利用促進事業		

事業内容	担当課等	文化財課（無我苑）
1 無我苑運営事業		

④ 施設の整備（15事業）

主要施策の方向		
<p>●施設の計画的な改修により安全性を高め、市民が安心して利用できるよう整備を進めます。</p> <p>●観光資源として活用するため、必要に応じて民間とも連携しながら、施設・サービスの向上を図ります。</p>		
事業内容	担当課等	生涯学習課（芸術文化ホール）
1 指定管理者審査委員会運営事業	2 芸術文化ホール費臨時事業	
事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
1 図書館施設維持管理事業	2 図書館コンピュータシステム運営事業	
3 市民図書館費臨時事業	4 中部分館施設管理事業	
5 中部分館臨時事業		
事業内容	担当課等	文化財課
1 大浜陣屋広場・旧大浜警察署維持管理事業		
事業内容	担当課等	文化財課（無我苑）
1 無我苑維持管理事業	2 無我苑費臨時事業	
事業内容	担当課等	海浜水族館
1 施設維持管理事業	2 機器維持管理事業	
3 ビオトープ維持管理事業	4 水族館費臨時事業	
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 美術館施設管理事業		

⑤ 施設の特色を活かした運営（12事業）

主要施策の方向		
<p>●碧南市芸術文化ホールは、優れた芸術文化にふれることができる機会を提供するとともに、市民による自主的な芸術文化活動が地域に根付くための支援を行います。</p> <p>●碧南市藤井達吉現代美術館は、多世代を対象とした美術普及活動を展開し、藤井達吉など本市に縁のある人物や地域の歴史の調査・研究を進め、啓発活動を行います。</p> <p>●哲学たいけん村無我苑は、哲学・茶道・芸術・文化などを通して心を豊かにする事業を展開します。</p> <p>●碧南市民図書館は、外国人を含めたあらゆる世代のニーズに応え、多種多様な資料を収集提供し、市民が自主的に学べるよう読書活動の推進を図ります。</p> <p>●碧南海浜水族館は、特別展やビオトープなどでの自然観察会等を通して、命の大切さを学び、絶滅危惧種や自然環境の保全に必要な能力の育成・支援を図ります。</p>		
事業内容	担当課等	生涯学習課（芸術文化ホール）
1 芸術文化ホール事務管理事業	2 芸術文化ホール指定管理事業	
事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
1 図書館用図書整備事業	2 図書館利用促進事業	
事業内容	担当課等	文化財課
1 歴史系企画展開催事業		

事業内容	担当課等	文化財課（無我苑）
1 無我苑運営事業		
事業内容	担当課等	海浜水族館
1 水族館展示管理事業	2 校外学習実施事業	
3 博物館教育普及活動事業	4 日本産希少淡水魚保護事業	
5 特別展開催事業		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 企画展開催事業		

令和 7 年度（令和 6 年度対象）
碧南市教育委員会 点検評価報告書

発行・編集 碧南市教育委員会

〒447-8601 碧南市松本町 2 8 番地

電 話 0 5 6 6 - 9 5 - 9 9 1 7

F A X 0 5 6 6 - 4 1 - 7 2 8 1

E-mail kshomuka@city.hekinan.lg.jp